

1. 児童生徒の生活の諸側面等に関する分析

分析内容とその視点

平成 19 年度全国学力・学習状況調査（以下「調査」という。）では、国語及び算数／数学について、基本的な知識・技能の定着を見る主として「知識」に関する問題と、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する能力を見る主として「活用」に関する問題を「教科に関する調査」として出題している。また、児童生徒の生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒質問紙と学校質問紙）を実施している。

本分析ではまず、その質問紙調査から得られたデータを用いて、正答数を基準変数とする重回帰分析¹を行い学力との関係が強い項目を探求するとともに、重回帰分析の結果を踏まえ、家庭における生活習慣・学習習慣に関する分析を行った。

児童生徒の学力には、学校の教育条件や指導方法以外にも、児童生徒自身の生活・学習習慣、地域の特性などの要因が複雑な構造で影響を与えている。児童生徒の学力を規定する要因を明らかにするためには、単純に質問紙の各質問項目と学力の関係を検討するだけでは不十分である。本分析では、学力を国語と算数／数学の正答数としてとらえる。その上で、正答数を基準変数とした重回帰分析を行い、正答数と質問紙調査の各項目間の独立した関係の強さを鳥瞰する。

さらに、正答数との関係が強い児童生徒の生活の諸側面等に関して、相互の関係を検討し、児童生徒の生活・学習習慣と正答数との関係を分析する。

1. 学力と学習習慣・生活習慣・学校の取組等の関係の分析

学校および児童生徒に対する質問紙調査の項目のうち、どの項目が正答数と強い関係を持っているかを探求するため、重回帰分析を行った。その結果、児童生徒自身の関心・意欲・態度や生活習慣と正答数の関係が強い傾向が見られた。また、学校の取組や学習指導も正答数に関係していた。

(1) 分析方法

本分析は、調査対象の学校・児童生徒全体を鳥瞰することを目的とする分析であるため、公立学校に限定せず、集計対象となった国公立学校、私立学校の児童生徒全員のデータを用いた。

具体的な分析方法は、小学校および中学校の学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査のデータを用い、これらの質問紙調査の項目から、正答数に関係すると考えられる項目を取り上げ、「生活習慣」、「関心・意欲・態度」、「授業」、「学校の状況」、「学校の取組」、「学習指導」の6つの項目群に分類した。まず、これらの項目群ごとにモデルを構築し、学力調査の各教科の正答数を基準変数として、重回帰分析を行った。その後、偏回帰係数²の符号³・標準化係数⁴・t値⁵・多重共線性⁶に注意しながら、各項目群ごとの分析において関係が強い項目を抽出して1つのモデルを構築し、重回帰分析を行った。

なお、教科に関する調査には、国語及び算数／数学について、主として知識・技能の定着

を見る問題 (A) と、主として活用に関する力を見る問題 (B) があるが、国語及び算数／数学の正答数を総合的に見るため、両問題の正答数の合計を基準変数に用いた。

(2) 分析結果

前述のような手続きにより、変数を精査して構築したモデルが表 1-1-1 から表 1-1-4 である。

表 1-1-1 重回帰分析の結果 (小学校・基準変数：国語 AB の正答数合計)

		偏回帰 係数	標準化 係数	t 値	
		(定数)	2.740		
児童 質問紙	生活・ 学習習慣	(1)朝食を毎日食べていますか	0.773	0.085	96.2
		(2)学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	0.607	0.104	111.5
		(21)学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.297	0.078	76.6
		(23)家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか	0.112	0.035	37.6
		(24)学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾に通っている	0.900	0.087	88.5
		(24)学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強する学習塾に通っている	-1.563	-0.113	-130.4
		(27)家の人と学校での出来事について話をしていますか	0.128	0.026	27.9
	(32)家で学校の宿題をしていますか	1.075	0.128	138.3	
	欲関 心 態 意	(9)ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	0.454	0.062	66.3
		(39)新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか	0.216	0.041	43.4
		(43)今住んでいる地域の行事に参加していますか	0.100	0.022	25.0
	授業	(68)国語の勉強は好きですか	0.310	0.061	62.2
		(72)新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか	0.318	0.061	62.1
(77)国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか		0.516	0.088	91.1	
学校 質問紙	学校 の 状 況	(3)第6学年の学級数(特別支援学級を除く)	0.144	0.032	36.2
		(16)第6学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか	0.356	0.040	45.2
		(19)第6学年の児童のうち、就学援助を受けている児童の割合	-0.185	-0.042	-47.7
		(20)第6学年の児童のうち、日本語指導が必要な児童の割合	-0.088	-0.015	-17.6
	学校 の 取 組	(78)学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか	0.278	0.022	25.8
		(80)地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか	0.118	0.010	11.3
		(38)第6学年の児童の学力を把握するため、都道府県が実施する学力調査を行いましたか	0.175	0.018	21.0
指学 導 習	(52)第6学年の児童に対する国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	0.120	0.016	18.4	
		R^2	0.210		

表 1-1-2 重回帰分析の結果（小学校・基準変数：算数 AB の正答数合計）

		偏回帰 係数	標準化 係数	t 値	
	(定数)	1.797			
児童質問紙	生活・学習習慣	(1) 朝食を毎日食べていますか	1.144	0.103	117.9
		(2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	0.721	0.100	111.6
		(17) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか	0.224	0.051	58.4
		(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.514	0.112	119.0
		(24) 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾に通っている	1.347	0.106	114.2
		(24) 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強する学習塾に通っている	-1.740	-0.103	-120.2
	(32) 家で学校の宿題をしていますか	1.412	0.137	152.0	
態度・関心	(9) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	0.625	0.069	78.9	
授業	(79) 算数の勉強は好きですか	1.365	0.243	275.3	
学校質問紙	学校の状況	(3) 第6学年の学級数(特別支援学級を除く)	0.144	0.026	29.6
		(16) 第6学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか	0.465	0.042	48.7
		(19) 第6学年の児童のうち、就学援助を受けている児童の割合	-0.252	-0.046	-53.1
		(20) 第6学年の児童のうち、日本語指導が必要な児童の割合	-0.089	-0.012	-14.7
	学校の取組	(73) 第6学年の児童に対する家庭訪問は、希望する児童だけを対象に実施しましたか	0.109	0.005	6.2
		(78) 学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか	0.344	0.023	26.3
		(94) 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか	0.021	0.008	9.2
		(97) 学校には校長の裁量経費がありますか	0.193	0.012	14.7
		(28) 第6学年の児童に対して、国が実施する学力向上のための事業による指定を受けたことがありますか	0.058	0.003	3.5
		(35) 第6学年の児童に対して、長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	0.082	0.007	8.1
		(37) 始業前や休み時間等において、学校全体で組織的・計画的に、児童の体力向上のための取組を週に何日くらい行っていますか	0.029	0.005	5.5
		(38) 第6学年の児童の学力を把握するため、都道府県が実施する学力調査を行いましたか	0.146	0.012	14.2
		(41) 第6学年の児童の学力を把握するため、学年末テストや学期末テストの結果の分析を行いましたか	0.061	0.005	5.8
	指学指導	(58) 第6学年の児童に対する算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	0.112	0.014	16.2
	R ²		0.230		

表 1-1-3 重回帰分析の結果（中学校・基準変数：国語 AB の正答数合計）

		偏回帰 係数	標準化 係数	t 値		
		(定数)	16.077			
生徒質問紙	生活・学習習慣	(1)朝食を毎日食べていますか	1.078	0.100	109.3	
		(2)学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	0.789	0.097	99.5	
		(22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.242	0.046	46.4	
		(24)学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾に通っている	2.172	0.148	148.2	
		(24)学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強する学習塾に通っている	-1.179	-0.078	-80.2	
		(28)家の人と学校での出来事について話をしていますか	0.335	0.046	48.4	
		(34)家で学校の宿題をしていますか	0.660	0.083	79.9	
	関心・意欲・態度	(9)ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	0.444	0.042	44.0	
		(42)世の中のいろいろな出来事に興味がありますか	0.180	0.022	22.9	
		(46)学校の規則を守っていますか	0.118	0.012	13.0	
		(50)人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	0.199	0.019	20.4	
	授業	(70)国語の勉強は好きですか	0.366	0.048	49.3	
		(73)読書は好きですか	1.042	0.153	162.1	
		(77)国語の授業では、自分の思いや考えを書くことが多いですか	0.640	0.078	82.9	
	学校質問紙	学校の状況	(17)第3学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	0.428	0.039	43.0
(21)第3学年の生徒のうち、就学援助を受けている生徒の割合			-0.537	-0.075	-82.6	
学校の取組		(78)学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか	0.425	0.024	27.1	
		学習指導	(52)第3学年の生徒に対する国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	0.294	0.029	32.3
			(53)第3学年の生徒に対する国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	0.114	0.011	12.3
R ²		0.197				

表 1-1-4 重回帰分析の結果（中学校・基準変数：数学 AB の正答数合計）

		偏回帰 係数	標準化 係数	t 値	
		(定数)	1.662		
生徒質問紙	生活・ 学習習慣	(1)朝食を毎日食べていますか	2.260	0.124	142.6
		(2)学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	0.978	0.071	77.1
		(17)普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか	-0.419	-0.044	-51.3
		(22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.519	0.058	61.1
		(24)学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾に通っている	4.798	0.193	202.1
		(24)学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強する学習塾に通っている	-1.918	-0.074	-81.3
		(28)家の人と学校での出来事について話をしていますか	0.106	0.009	9.8
		(34)家で学校の宿題をしていますか	1.137	0.084	85.8
	関心・ 態度・ 意欲	(9)ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	0.170	0.009	10.9
		(46)学校の規則を守っていますか	0.626	0.038	42.7
	授業	(81)数学の勉強は好きですか	1.932	0.171	172.1
		(85)数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	2.191	0.166	162.3
	学校質問紙	学校の 状況	(17)第3学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	0.887	0.048
(21)第3学年の生徒のうち、就学援助を受けている生徒の割合			-1.046	-0.086	-100.4
学校の 取組		(78)学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか	0.957	0.032	38.1
		学習 指導	(59)第3学年の生徒に対する数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	0.479	0.029
(60)第3学年の生徒に対する数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか			0.511	0.028	32.1
R ²		0.291			

これらの分析結果から、家庭での生活・学習習慣、学校での学習態度などが学力に大きく関係していること、また、学校の状況や、学校の取組、学習指導もある程度のあることが読み取れる。

生活・学習習慣では、「朝食を毎日食べている」「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている」「普段(月曜日から金曜日)又は休日の勉強時間」「家で学校の宿題をする」などの項目が、小学校と中学校の国語と算数/数学の両方で、正答数と関係している。学習塾で勉強することも大きく関係しているが、学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾に通っている場合は、プラスの関係が見られ、学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している学習塾に通っている場合はマイナスの関係が見られる。

関心・意欲・態度では、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」が、小学校と中学校の国語と算数／数学の両方で正答数との関係が見られる。

授業では、小学校・中学校とも、国語や算数／数学で「勉強が好き」が大きな関係しているほか、小学校国語の「国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」、中学校国語の「国語の授業では、自分の思いや考えを書くことが多い」「読書は好き」、中学校数学の「解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」も正答数との関係が見られる。

学校の状況では、「就学援助を受けている児童生徒の割合」が、小学校と中学校の国語と算数／数学の両方で正答数に関係している。

学校の取組では、「学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っている」が正答数との関係が見られる。

学習指導では、小学校の算数と中学校の国語・数学での「発展的な学習の指導」、中学校の国語・数学での「家庭学習の課題（宿題）を与えた」が正答数との関係が見られる。

(3) まとめ

表1-1-1から表1-1-4において示した結果を、標準化係数に着目して要約した一覧表が、表1-2である。

本分析においては、総じて、児童生徒自身の関心・意欲・態度や生活・学習習慣が正答数と強く関係している傾向が見られた。また、学校の取組や学習指導も関係している。

これらのことから、正答数に影響を与える要因を探求するためには、学校の取組・学習指導にも留意しながら、児童生徒の生活習慣や学習の状況に着目した分析を進めることが必要である。

本分析は、大まかに項目を分類し、学力との関係が強い項目を探る出発点としての分析である。本分析には、用いた変数が連続変量ではなく、正規分布をしていない問題、データが学校と児童生徒の階層構造になっているなどの課題がある。今後、それらの課題を解決するべく、他の統計的手法や、テーマに応じた分析方法を用いて分析を行う必要がある。より精緻な分析を行うことにより、本分析では学力との強い関係が見られなかった項目でも、学力との関係が析出される可能性があると考えられる。

表 1-2 重回帰分析の結果の要約

		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	
児童生徒質問紙	生活・学習習慣	朝食を毎日食べていますか	0.085	0.103	0.100	0.124
		学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	0.104	0.100	0.097	0.071
		普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか		0.051		-0.044
		学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.078			
		土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか		0.112	0.046	0.058
		家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか	0.035			
		学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾に通っている	0.087	0.106	0.148	0.193
		学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強する学習塾に通っている	-0.113	-0.103	-0.078	-0.074
		家の人と学校での出来事について話をしていますか	0.026		0.046	0.009
		家で学校の宿題をしていますか	0.128	0.137	0.083	0.084
	関心・意欲・態度	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	0.062	0.069	0.042	0.009
		新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか	0.041			
		世の中のいろいろな出来事に関心がありますか			0.022	
		今住んでいる地域の行事に参加していますか	0.022			
		学校の規則を守っていますか			0.012	0.038
	授業(国語)	国語の勉強は好きですか	0.061	—	0.048	—
		読書は好きですか		—	0.153	—
		新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか	0.061	—	—	—
		国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか(小学校)	0.088	—	—	—
		国語の授業では、自分の思いや考えを書くことが多いですか(中学校)	—	—	0.078	—
授業(算数)	算数/数学の勉強は好きですか	—	0.243	—	0.171	
	算数/数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	—	—	—	0.166	
学校質問紙	学校の状況	第6学年の学級数(特別支援学級を除く)	0.032	0.026		
		児童生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	0.040	0.042		
		児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか			0.039	0.048
		児童生徒のうち、就学援助を受けている児童生徒の割合	-0.042	-0.046	-0.075	-0.086
	学校の取組	児童生徒のうち、日本語指導が必要な児童生徒の割合	-0.015	-0.012		
		児童生徒に対する家庭訪問は、希望する児童生徒だけを対象に実施しましたか		0.005		
		学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか	0.022	0.023	0.024	0.032
		地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか	0.010			
		授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか		0.008		
		学校には校長の裁量経費がありますか		0.012		
		児童生徒に対して、国が実施する学力向上のための事業による指定を受けたことがありますか		0.003		
		児童生徒に対して、長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施していますか		0.007		
		始業前や休み時間等において、学校全体で組織的・計画的に、児童の体力向上のための取組を週に何日くらい行っていますか		0.005		
		児童生徒の学力を把握するため、都道府県が実施する学力調査を行いましたか	0.018	0.012		
	学習指導(国語)	児童生徒の学力を把握するため、学年末テストや学期末テストの結果の分析を行いましたか		0.005		
		児童生徒に対する国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか		—	0.029	—
		児童生徒に対する国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか		—	0.011	—
		児童生徒に対する国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	0.016	—		—
	学習指導(算数)	児童生徒に対する算数/数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	—	0.014	—	0.029
		児童生徒に対する算数/数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	—	—	—	0.028

※数値は標準化係数を表す。空欄は相関が弱い分析の途中で除外した変数で、「—」は基準変数と教科や学校種が違うため、分析に含めなかった変数である。

2. 児童生徒の生活の諸側面に関する分析

正答数に大きく関係している「朝食」、「家庭での学習」、「宿題」は、相互に密接な関係があり、例えば朝食を毎日食べている児童生徒ほど、家庭で長い時間学習をし、宿題をよくしている傾向が見られる。また、基本的生活習慣に正答数との大きな関連が見られ、他にも学習習慣や規範意識、自尊感情、家庭でのコミュニケーションなどとの関連が見られる。

(1) 「朝食」、「家庭での学習時間」、「宿題」に着目した分析

①分析方法

1. で行った正答数を基準変数とする重回帰分析の結果、児童生徒の家庭における生活習慣や学習習慣の正答数との関係が強い傾向が見られる。特に顕著な関係が見られた項目には、「朝食を毎日食べる」、「家庭での学習時間」、「家で学校の宿題をしている」という3つの項目が含まれている。この結果を踏まえ、どのような生活・学習習慣を持つ児童生徒が、朝食を毎日食べ、家庭で学習をし、宿題をしているのかを明らかにするため、家庭での生活・学習習慣に関わるこの3項目についてクロス分析を行った。

②分析結果

ここでは、「朝食を毎日食べる」と「家庭での学習時間」のクロス表を表2-1-1、「朝食を毎日食べる」と「家で学校の宿題をしている」のクロス表を2-1-2に示す。また、図2-1-1は、表2-1-1の内容を図にしたものである。

これらの図表から、朝食を毎日食べている児童生徒ほど、家庭学習をよくしている傾向が見られる。また、宿題についても、朝食を毎日食べている児童生徒の方が、宿題をよくしている傾向が見られる。例えば朝食を毎日食べている児童は、85.7%が宿題をしているのに対し、全く食べていない児童で宿題をしている者は53.8%である。

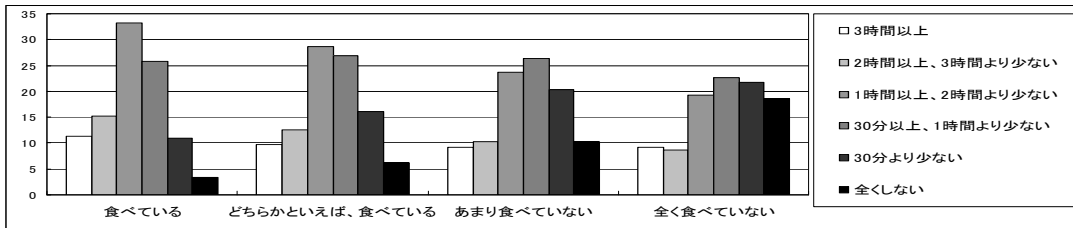
表2-1-1 「朝食を毎日食べる」と「家庭での学習時間（平日）」のクロス表

		平日の学習時間 (%)							
		3時間以上	2時間以上、 3時間より少ない	1時間以上、 2時間より少ない	30分以上、 1時間より少ない	30分より少ない	全くしない	合計	
朝食を毎日食べる	小学校	食べている	11.4%	15.2%	33.3%	25.8%	11.0%	3.3%	100.0%
		どちらかといえば、 食べている	9.8%	12.5%	28.6%	26.9%	16.1%	6.2%	100.0%
		あまり食べていない	9.2%	10.2%	23.7%	26.3%	20.3%	10.3%	100.0%
		全く食べていない	9.2%	8.7%	19.3%	22.6%	21.7%	18.5%	100.0%
		合計	11.1%	14.7%	32.4%	25.9%	11.9%	4.0%	100.0%
	中学校	食べている	10.0%	26.8%	30.9%	16.3%	9.4%	6.5%	100.0%
		どちらかといえば、 食べている	9.3%	23.2%	26.9%	16.7%	12.6%	11.2%	100.0%
		あまり食べていない	9.0%	20.0%	23.8%	16.2%	14.7%	16.4%	100.0%
		全く食べていない	9.1%	17.1%	19.8%	13.3%	13.9%	26.8%	100.0%
		合計	9.9%	25.8%	29.8%	16.3%	10.1%	8.1%	100.0%

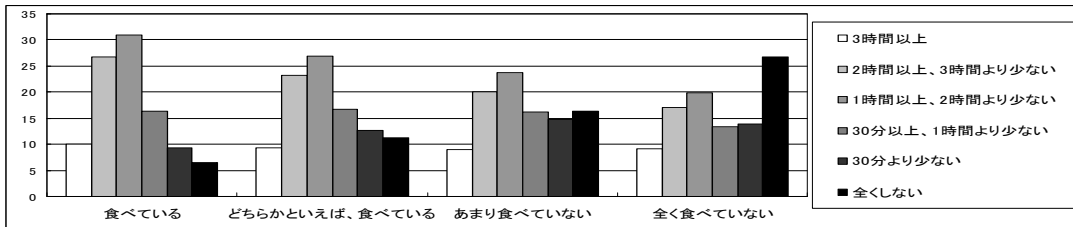
「朝食を毎日食べる」と「家庭での学習時間（休日）」のクロス表

		休日の学習時間 (%)						合計	
		4時間以上	3時間以上、 4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全くしない		
朝食を毎日食べる	小学校	食べている	6.7%	5.0%	12.3%	31.2%	35.0%	9.6%	100.0%
		どちらかといえば、食べている	5.5%	4.0%	9.9%	26.5%	39.6%	14.5%	100.0%
		あまり食べていない	5.2%	3.6%	7.9%	21.7%	40.4%	21.3%	100.0%
		全く食べていない	5.3%	3.4%	6.6%	16.1%	36.6%	32.0%	100.0%
		合計	6.6%	4.9%	11.9%	30.3%	35.7%	10.7%	100.0%
	中学校	食べている	5.2%	11.3%	23.3%	26.1%	21.6%	12.4%	100.0%
		どちらかといえば、食べている	3.8%	9.2%	19.1%	23.2%	25.1%	19.6%	100.0%
		あまり食べていない	3.5%	7.6%	15.6%	20.2%	26.1%	26.9%	100.0%
		全く食べていない	3.8%	6.3%	12.7%	16.2%	21.7%	39.4%	100.0%
		合計	4.9%	10.7%	22.2%	25.2%	22.3%	14.7%	100.0%

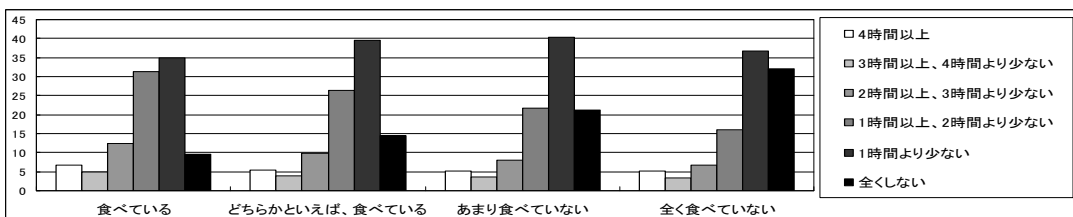
図2-1-1 小学校：「朝食を毎日食べる」と「平日の学習時間」



中学校：「朝食を毎日食べる」と「平日の学習時間」



小学校：「朝食を毎日食べる」と「休日の学習時間」



中学校：「朝食を毎日食べる」と「休日の学習時間」

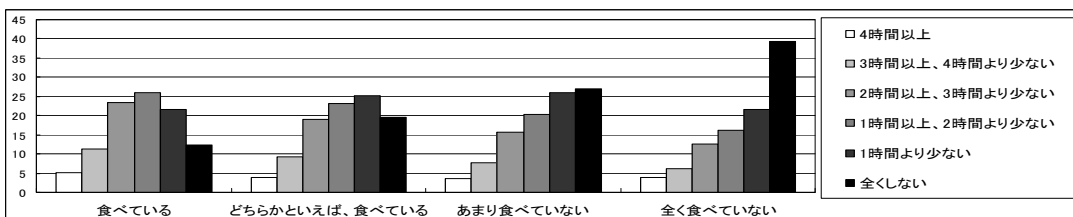


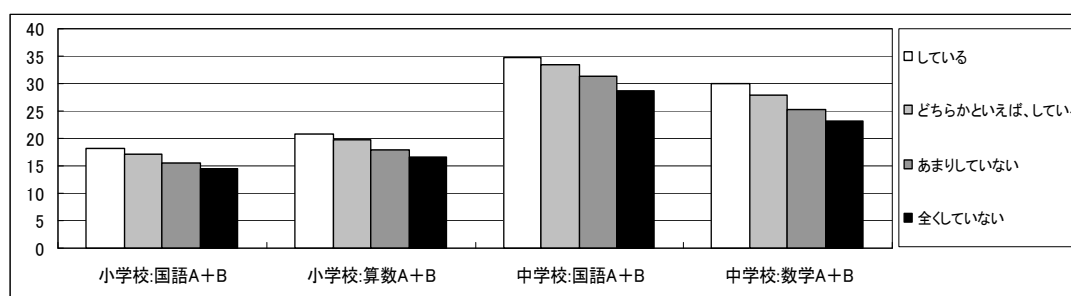
表 2-1-2 「朝食を毎日食べる」と「家で学校の宿題をしている」のクロス表

		家で学校の宿題をしている (%)					
		している	どちらか と いえば、 している	あまりして いない	全くして いない	合計	
朝食を毎日食べる	小学校	食べている	85.7%	10.1%	3.2%	0.9%	100.0%
		どちらかといえば、食べている	69.9%	20.6%	7.8%	1.7%	100.0%
		あまり食べていない	61.2%	22.5%	12.9%	3.4%	100.0%
		全く食べていない	53.8%	21.0%	15.6%	9.7%	100.0%
		合計	83.1%	11.6%	4.1%	1.1%	100.0%
	中学校	食べている	60.3%	23.5%	11.5%	4.6%	100.0%
		どちらかといえば、食べている	42.0%	30.9%	18.8%	8.3%	100.0%
		あまり食べていない	35.4%	28.8%	23.5%	12.3%	100.0%
		全く食べていない	31.7%	23.6%	22.0%	22.6%	100.0%
		合計	56.2%	24.7%	13.3%	5.9%	100.0%

しかし、朝食を毎日食べることだけが、国語、算数／数学の正答数を決定づける条件ではない。朝食を全く食べない児童生徒の正答数は全体の平均より少ないが、朝食を全く食べない児童生徒でも、その他の生活・学習習慣が確立しているかどうかで正答数に差が見られるかを検討した。その結果は、表 2-1-3 と図 2-1-3 である。朝食を全く食べていない児童生徒でも、学校に持って行くものを前日に準備したり、決まった時間に就寝するといった朝食を除く他の生活・学習習慣が確立していると見ることが出来る児童生徒とそうでない児童生徒の間で正答数に差が見られた。

図 2-1-3 朝食を食べない児童生徒の平均正答数

「(2)学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか」



「(32/34)家で学校の宿題をしていますか」

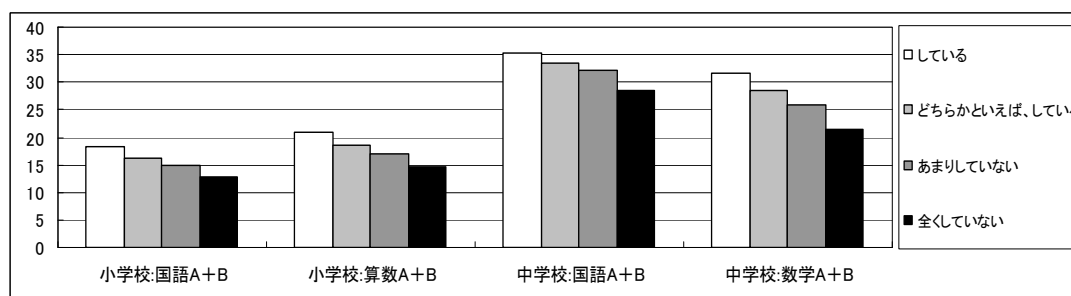


表 2-1-3 朝食を食べていない児童生徒の平均正答数

		小学校		中学校	
		正答数 国語 A+B	正答数 算数 A+B	正答数 国語 A+B	正答数 数学 A+B
(2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	している	18.20	20.71	34.79	30.09
	どちらかといえば、している	17.18	19.73	33.42	27.89
	あまりしていない	15.53	18.04	31.39	25.34
	全くしていない	14.54	16.74	28.80	23.15
	合計	16.77	19.23	32.62	27.32
(4) 毎日、同じくらの時刻に寝ていますか	している	17.21	20.01	32.73	27.87
	どちらかといえば、している	18.18	20.90	34.32	29.48
	あまりしていない	17.44	19.89	33.49	28.17
	全くしていない	15.34	17.47	30.51	24.60
	合計	16.77	19.23	32.62	27.32
(6) 勉強する時間を自分で決めて実行していますか	している	16.98	19.50	33.55	30.09
	どちらかといえば、している	17.63	20.33	34.14	30.29
	あまりしていない	17.61	20.22	34.09	29.11
	全くしていない	15.93	18.22	31.24	25.11
	合計	16.77	19.24	32.61	27.31
(21) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	3 時間以上	19.22	22.64	34.97	33.23
	2 時間以上、3 時間より少ない	18.10	20.97	34.78	32.18
	1 時間以上、2 時間より少ない	17.80	20.58	33.77	29.94
	30 分以上、1 時間より少ない	16.89	19.35	33.39	27.86
	30 分より少ない	16.23	18.41	32.31	25.06
	全くしない	14.40	16.21	29.37	21.18
	合計	16.78	19.25	32.62	27.33
(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	4 時間以上	19.77	23.67	35.47	34.70
	3 時間以上、4 時間より少ない	17.61	20.37	35.29	33.70
	2 時間以上、3 時間より少ない	17.76	20.56	35.49	32.87
	1 時間以上、2 時間より少ない	17.57	20.25	34.34	30.56
	1 時間より少ない	16.89	19.29	33.12	27.02
	全くしない	15.48	17.57	30.02	22.64
	合計	16.78	19.25	32.62	27.33
(32/34) 家で学校の宿題をしていますか	している	18.26	21.02	35.16	31.66
	どちらかといえば、している	16.21	18.57	33.52	28.41
	あまりしていない	14.81	16.87	32.23	26.04
	全くしていない	12.93	14.63	28.52	21.37
	合計	16.78	19.24	32.62	27.33
すべての児童生徒の平均正答数		21.00	24.53	37.67	36.68

(2) 児童生徒の生活の諸側面等に関する項目を用いた主成分・因子分析

①分析の視点・分析方法

児童生徒の生活状況等を構造的に把握するため、質問紙項目を設計意図に基づき、「基本的生活習慣」、「家庭でのコミュニケーション」、「地域や社会への興味・関心」、「体験的活動の経験」、「自尊感情」、「規範意識」の項目群に分類して、各項目群について主成分分析⁸もしくは因子分析⁹を行った。

②主成分分析・因子分析の結果

表2-2-1は、児童生徒の生活の諸側面等に関する項目を用いた主成分分析および因子分析の結果である。上記「地域や社会への興味・関心」と「体験的活動の経験」については、主因子法による因子分析を行い、最初の2因子を抽出し、それ以外については、主成分分析を行い、第1主成分を抽出した。同表には、「基本的生活習慣」、「家庭でのコミュニケーション」、「社会への興味・関心」、「地域への興味・関心」、「地域や家庭における体験」、「自然体験」、「自尊感情」、「規範意識」という8種類の主成分・因子の負荷量を示している。この値が高いほど、縮約された主成分に大きく影響している変数であること、又は、抽出された因子から大きく影響を受けている変数であることを表す。

表2-2-1 主成分分析および因子分析の結果

基本的生活習慣

	小学校	中学校
(1) 朝食を毎日食べていますか	0.472	0.507
(2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	0.551	0.573
(3) 身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか	0.562	0.494
(4) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	0.687	0.689
(5) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	0.671	0.663
(7) テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか	0.501	0.430

家庭でのコミュニケーション

	小学校	中学校
(25) 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか	0.621	0.632
(26) 家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか	0.536	0.632
(27) 家の人と学校での出来事について話をしていますか	0.638	0.670
(28) 家の人と一緒に運動・スポーツをしていますか	0.620	0.609
(29) 家の手伝いをしていますか	0.481	0.464
(30) 家で食事をするときは、テレビを見ないようにしていますか	0.324	0.210

社会への興味・関心 地域への興味・関心

	小学校		中学校	
	社会への興味・関心	地域への興味・関心	社会への興味・関心	地域への興味・関心
(39) 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか	0.885	0.066	0.920	0.103
(40) 世の中のいろいろな出来事に関心がありますか	0.886	0.120	0.913	0.153
(41) 今住んでいる地域が好きですか	0.075	0.763	0.051	0.748
(43) 今住んでいる地域の行事に参加していますか	0.027	0.713	0.057	0.738
(42) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか	0.453	0.569	0.252	0.739

※太線で囲まれた変数が、それぞれの因子を構成する変数であることを示す。

地域や家庭における体験 自然体験

	小学校		中学校	
	地域や家庭における体験	自然体験	地域や家庭における体験	自然体験
(54) 花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか	0.534	0.341	0.582	0.366
(55) 小さい子どもをおんぶやだっこしたり、遊んであげたりしたことがありますか	0.471	0.184	0.533	0.208
(56) 体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか	0.451	0.212	0.510	0.215
(57) 清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか	0.384	0.203	0.448	0.249
(58) 木材を使ったものづくりをしたことがありますか	0.431	0.378	0.448	0.395
(59) 包丁やナイフを使って調理をしたことがありますか	0.627	0.137	0.637	0.177
(60) 編み物や裁縫をしたことがありますか	0.648	0.051	0.683	0.076
(51) 海、山、湖、川などで遊んだことがありますか	0.214	0.569	0.239	0.623
(52) 魚や貝や昆虫をつまえたことがありますか	0.088	0.822	0.118	0.885
(53) 生き物を飼育したことがありますか	0.245	0.497	0.291	0.491

※太線で囲まれた変数が、それぞれの因子を構成する変数であることを示す。

自尊感情

	小学校	中学校
(9) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	0.691	0.692
(10) 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか	0.706	0.724
(11) 自分には、よいところがあると思いますか	0.681	0.677
(12) 将来の夢や目標を持っていますか	0.579	0.604

規範意識

	小学校	中学校
(44) 学校のきまりを守っていますか	0.546	0.428
(45) 友達との約束を守っていますか	0.516	0.525
(46) 人が困っているときは、進んで助けていますか	0.671	0.682
(47) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか	0.555	0.557
(48) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	0.740	0.727
(49) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	0.585	0.592
(50) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	0.723	0.733

③主成分・因子得点と正答数の相関係数

表2-2-1で示した8つの主成分・因子の得点と正答数の間の相関係数を表2-2-2に示す。

表2-2-2 主成分・因子得点と正答数の相関係数表

		国語 A B の正答数合計	算数／ 数学 A B の正答数合計	基本的 生活習慣	家庭での コミュニケーション	社会への 興味・関心	地域への 興味・関心	地域や家庭 における体験	自然 体験	自尊 感情	規範 意識
小学校	基本的生活習慣	0.292	0.275	1.000	0.430	0.293	0.228	0.274	0.093	0.417	0.457
	家庭でのコミュニケーション	0.079	0.059		1.000	0.274	0.283	0.344	0.188	0.379	0.406
	社会への興味・関心	0.189	0.160			1.000	0.000	0.261	0.158	0.348	0.336
	地域への興味・関心	0.074	0.071				1.000	0.241	0.150	0.268	0.335
	地域や家庭における体験	0.101	0.035					1.000	0.145	0.334	0.392
	自然体験	-0.016	0.010						1.000	0.193	0.094
	自尊感情	0.191	0.180							1.000	0.533
	規範意識	0.197	0.158								1.000
中学校	基本的生活習慣	0.222	0.228	1.000	0.376	0.228	0.219	0.208	0.098	0.353	0.380
	家庭でのコミュニケーション	0.094	0.069		1.000	0.213	0.323	0.318	0.162	0.315	0.348
	社会への関心・興味	0.165	0.129			1.000	0.000	0.185	0.154	0.285	0.249
	地域への関心・興味	0.036	0.051				1.000	0.262	0.189	0.273	0.338
	地域や家庭における体験	0.092	0.001					1.000	0.116	0.301	0.374
	自然体験	-0.001	0.022						1.000	0.190	0.118
	自尊感情	0.125	0.128							1.000	0.484
	規範意識	0.133	0.105								1.000

この分析の結果、正答数との関係が最も強いのは、基本的生活習慣で、相関係数は0.292であった。次いで、社会への興味・関心、規範意識、自尊感情が、相関係数0.2には満たないものの、正答数と関係していた。

因子・主成分間では、基本的生活習慣と家庭でのコミュニケーション、規範意識、自尊感情の関係や家庭でのコミュニケーションと規範意識、自尊感情、地域や家庭における体験、地域への興味・関心の関係が強かった。また、地域や社会への興味・関心が高かったり、地域や家庭における体験を行っている児童生徒ほど、規範意識が高く、自尊感情が高かった。規範意識と自尊感情の相関係数も高くなっていた。

④学習習慣と主成分・因子得点および正答数の相関係数

表2-2-3は、学習習慣に関する質問項目と、表2-2-1において抽出された8つの主成分・因子の得点と正答数の間の相関係数を示している。

③の分析において、基本的生活習慣と正答数との相関が比較的高いことが明らかとなったことに加え、表2-2-3から、基本的生活習慣は、「勉強する時間を自分で決めて実行し

ている」，「家で学校の宿題をしている」といった学習習慣との相関が高いことが分かる。
「勉強する時間を自分で決めて実行している」，「家で学校の宿題をしている」児童生徒は、自尊感情と規範意識が高く、家庭でのコミュニケーションをとっている傾向が見られる。また、小学校では、勉強時間と社会への興味・関心の間に関係が見られる。

表 2-2-3 学習習慣と主成分・因子得点および正答数の相関係数表

		国語 A B の正答数合計	算数 A B の正答数合計	勉強する時間を自分で決めて実行していますか	学校(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	学校(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	家で学校の宿題をしていますか	基本的生活習慣	家庭でのコミュニケーション	社会への興味・関心	地域への興味・関心	地域や家庭における体験	自然体験	自尊感情	規範意識
小学校	(6) 勉強する時間を自分で決めて実行していますか	0.138	0.137	1.000	0.333	0.333	0.205	0.417	0.271	0.254	0.141	0.212	0.054	0.293	0.314	
	(21) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.229	0.247		1.000	0.629	0.165	0.218	0.129	0.208	0.070	0.159	0.040	0.192	0.211	
	(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.215	0.240			1.000	0.122	0.208	0.127	0.231	0.059	0.150	0.036	0.179	0.196	
	(32) 家で学校の宿題をしていますか	0.260	0.243				1.000	0.311	0.173	0.102	0.121	0.122	-0.012	0.196	0.280	
中学校	(6) 勉強する時間を自分で決めて実行していますか	0.107	0.141	1.000	0.400	0.455	0.374	0.407	0.246	0.186	0.156	0.163	0.050	0.273	0.261	
	(21) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.172	0.246		1.000	0.617	0.306	0.208	0.123	0.110	0.099	0.125	0.029	0.167	0.189	
	(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	0.208	0.274			1.000	0.351	0.249	0.172	0.149	0.114	0.145	0.023	0.178	0.197	
	(34) 家で学校の宿題をしていますか	0.248	0.272				1.000	0.373	0.252	0.150	0.153	0.173	0.025	0.227	0.311	

(3) まとめ

本分析により、「朝食を毎日食べる」、「学校への持ち物を確認する」、「毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりする」などの基本的生活習慣と正答数との相関が比較的強いことが明らかとなった。また、基本的生活習慣は、学習習慣にも関係しており、規則正しい生活習慣と学習習慣の確立が、学力と関係している様子が示唆される。

家庭での生活・学習習慣は、基本的には家庭において形成されるものであると想定される。しかし、学校においても、適切な家庭学習の課題を与えるなど、生活・学習習慣の確立に向

けた適切な指導を行っていくことが望まれる。今後とも引き続き学校においては、保護者や地域と連携を図りながら、児童生徒の家庭での生活・学習習慣の形成を支援していく取組が必要であると考えられる。

3. 留意事項

本分析により、児童生徒の生活・学習習慣と学力の関係が強いことが明らかとなったが、生活・学習習慣に係る特定の項目だけを行えば学力が向上すると短絡的に結論付けることはできないことに留意する必要がある。

例えば、朝食を毎日食べている児童生徒ほど学力が高いという傾向が見られたが、これは各児童生徒自身の特性や各家庭における子育て全般に対する姿勢などを反映している可能性があり、朝食を毎日食べれば学力が向上すると単純に結びつけることはできない。

また、学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾は学力とプラス、学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強する学習塾は学力とマイナスの関係が見られたが、これが通塾の効果であると結論付けるのは早計である。学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強する学習塾に通う児童生徒と学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強する学習塾に通う児童生徒の学力の状況がもともと異なっているなど様々な要因から、今回の分析結果が出たと考えられるからである。

注

1. 重回帰分析とは、1つの結果（基準変数又は従属変数と呼ばれる）を、複数の要因（説明変数）で説明しようとする分析方法である。それぞれの説明変数が基準変数に対して、どのくらいの独立した関係があるかを明らかにする分析方法である。
2. 偏回帰係数とは、ある説明変数以外の全ての説明変数が一定として、その説明変数が1単位増加したときに、基準変数がどのくらい変化するかを表す値である。
3. 偏回帰係数の符号は、その説明変数が、基準変数に対して、プラスの関係があるのかマイナスの関係があるのかを示す。正答数を基準変数にしたとき、勉強時間の偏回帰係数の符号がプラスであれば、勉強時間が長いほど正答数が多いという関係があることを意味する。
4. 標準化係数とは、説明変数間で関係の強さを比較できるよう、偏回帰係数を変換した値である。
5. t値とは、計算された偏回帰係数の値の安定性を表す値である。t値が大きいほど、計算された偏回帰係数がより安定していることを意味する。
6. 多重共線性とは、重回帰分析に投入する説明変数間に強すぎる相関がある場合、推定される値が不安定となる問題のことである。
7. R^2 とは、決定係数とも呼ばれ、データが回帰モデルにどの程度あてはまっているかを表す指標である。0から1の値を取り、1に近いほどデータがモデルによくあてはまっていることを示す。
8. 主成分分析とは、複数の変数を少数の総合的な変数に縮約する分析方法である。
9. 因子分析とは、データの背後にあり、共通に影響を与えている潜在的な構造を明らかにする分析方法である。

2. 習熟度別・少人数指導について

1. 習熟度別・少人数指導項目について

習熟度別・少人数指導項目への回答分布については、国語について習熟度別・少人数指導を行った学校の割合よりも、算数／数学について習熟度別・少人数指導を行った学校の割合の方が高い。また、習熟度別・少人数指導の中においても、習熟の早いグループに対する発展的指導を行った学校の割合よりも、習熟の遅いグループに対する少人数指導を行った学校の割合が高い。

(1) 習熟度別・少人数指導に関する質問項目の設定

平成19年度全国学力・学習状況調査（以下「調査」という。）においては、各学校における個に応じた指導の実施状況及び教科に関する調査結果との関係等を把握・分析するため、小学校及び中学校に対する学校質問紙調査において、

- ・ 国語の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしたか：小学校質問紙(44)、中学校質問紙(46)
- ・ 国語の授業において、習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行ったか：小学校質問紙(45)、中学校質問紙(47)
- ・ 算数／数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしたか：小学校質問紙(47)、中学校質問紙(49)
- ・ 算数／数学の授業において、習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行ったか：小学校質問紙(48)、中学校質問紙(50)

についての質問項目を設定した（以下、「習熟度別・少人数指導質問項目」という。）。これらの質問項目に関して、多くの時間で行った／どちらかといえば行った／あまり行っていない／全く行っていない、の4つの選択肢を設けて回答してもらった。なお、上記の質問項目の指導方法を、「習熟度別・少人数指導」と記述する。

(2) 習熟度別・少人数指導質問項目への回答分布

調査の対象となった全ての学校における習熟度別・少人数指導質問項目への回答分布は、表1と表2のとおりとなっている。その回答分布を見ると、小学校及び中学校の両学校種において、国語について習熟度別・少人数指導を行った（多くの時間で行った／どちらかといえば行った）学校の割合よりも、算数／数学について習熟度別・少人数指導を行った学校の割合の方が高い。また、習熟度別・少人数指導の中においても、習熟の早いグループに対する発展的な内容の指導を行った学校の割合よりも、習熟の遅いグループに対する少人数指導を行った学校の割合が高い。

このことについては、算数／数学は習熟度別・少人数指導の効果が高い教科であると考えられていること、習熟の遅いグループに対する少人数指導の方がより重視されていることによるものと考えられる。

表 1 習熟度別・少人数指導質問項目への回答分布の単純集計（小学校）

	(44)国語 少人数	(45)国語 発展的	(47)算数 少人数	(48)算数 発展的
1.多くの時間で行った	1,830 8.3%	614 2.8%	8,733 39.5%	4,028 18.2%
2.どちらかといえば行った	6,340 28.7%	4,688 21.2%	9,070 41.0%	9,237 41.8%
3.あまり行っていない	6,615 29.9%	9,238 41.8%	2,382 10.8%	6,330 28.6%
4.全く行っていない	7,292 33.0%	7,535 34.1%	1,892 8.6%	2,482 11.2%
無回答	28 0.1%	30 0.1%	28 0.1%	28 0.1%
全体	22,105 100.0%	22,105 100.0%	22,105 100.0%	22,105 100.0%

表 2 習熟度別・少人数指導質問項目への回答分布の単純集計（中学校）

	(46)国語 少人数	(47)国語 発展的	(49)数学 少人数	(50)数学 発展的
1.多くの時間で行った	902 8.4%	480 4.5%	3,942 36.7%	2,357 22.0%
2.どちらかといえば行った	2,685 25.0%	2,517 23.5%	3,832 35.7%	3,923 36.6%
3.あまり行っていない	2,937 27.4%	3,798 35.4%	1,420 13.2%	2,779 25.9%
4.全く行っていない	4,180 39.0%	3,910 36.4%	1,510 14.1%	1,646 15.3%
無回答	26 0.2%	25 0.2%	26 0.2%	25 0.2%
全体	10,730 100.0%	10,730 100.0%	10,730 100.0%	10,730 100.0%

2. 習熟度別・少人数指導と学校規模

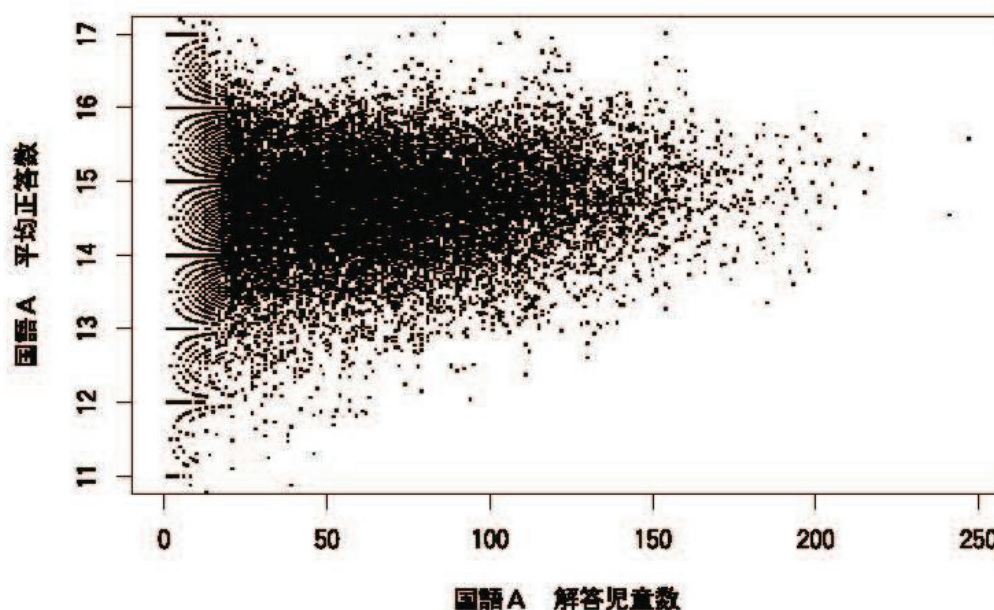
習熟度別・少人数指導は、各教科等の授業において、例えば、1つの学級を習熟度別に2つのグループに分けたり、2つの学級を3つのグループに分けて少人数で授業を行う授業形態・方法である。

習熟度別・少人数指導は、1つのグループを少人数にして指導を行うことにより、児童生徒一人一人に対してきめの細かい指導を行うことが可能となり、そのことによって指導の効果を高めることをねらいとして実施するものである。したがって、習熟度別・少人数指導の効果をより高めるためには、もともとある程度の規模の学校において実施することが有効と考えられる。

また、学校単位の集計量のばらつきは、学校内の児童生徒数の影響を受けることを考慮することが必要である。例えば、図1は、小学校国語Aの解答児童数と平均正答数で小学校をプロットしたものである。これによると、学校における解答児童数が少ないほど、学校の平均正答数は個々の児童の正答数の影響を受けやすくなり、ばらつきが大きくなっている。このため、平均正答数が少ない、又は多い学校は解答児童数も少ない学校が多い。

一方、小学校第6学年及び中学校第3学年が1学級で7人以下の学校であっても、2割から4割の学校が習熟の遅いグループに対して少人数指導を「多くの時間で行った」と回答しており、習熟度別・少人数指導の効果を分析するためには、このような小規模の学校の影響を考慮することが必要と考えられる。

図1 解答児童数と平均正答数（国語A）



以上のように、習熟度別・少人数指導の効果を分析するに当たっては、学校規模を考慮した分析が適切であることから、分析対象を小学校第6学年及び中学校第3学年の解答児童生徒数が21人以上の公立学校に限定し、本分析における「集計対象学校」とすることとした。

3. 習熟度別・少人数指導と平均正答数

多くの時間で習熟の遅いグループに対する少人数指導や習熟の早いグループに対する発展的指導を行った学校の方が、少人数指導や発展的指導を行っていない学校より、学校の平均正答数はやや高い傾向が見られる。

(1) 分析手法

習熟度別・少人数指導の効果を分析するため、学校の平均正答数を習熟度別・少人数指導質問項目への回答別に算出して比較を行った。

(2) 分析結果

集計結果は表3及び表4のとおりであり、習熟の遅いグループに対する少人数指導を「多くの時間で行った」学校（以下「多くの時間で少人数指導を行った学校」という。）と、「全く行っていない」又は「あまり行っていない」学校（以下「少人数指導を行っていない学校」という。）との間で平均正答数を比較すると、多くの時間で少人数指導を行った学校の方が少人数指導を行っていない学校より、学校の平均正答数はやや高い傾向が見られる。また、習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を「多くの時間で行った」学校（以下「多く

の時間で発展的指導を行った学校」という。)についても、「全く行っていない」又は「あまり行っていない」学校(以下「発展的指導を行っていない学校」という。)よりも平均正答数がやや高くなる傾向が見られる。

表3 習熟の遅いグループに対する少人数指導と平均正答数

小学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
国語A	14.73	14.67	14.66	14.67	国語A	30.33	30.29	30.22	30.23
国語B	6.23	6.16	6.17	6.20	国語B	7.20	7.20	7.18	7.17
算数A	15.62	15.53	15.46	15.53	数学A	26.02	25.80	25.64	25.83
算数B	8.83	8.78	8.75	8.81	数学B	10.33	10.21	10.19	10.23

表4 習熟の早いグループに対する発展的指導と平均正答数

小学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
国語A	14.88	14.76	14.65	14.65	国語A	30.52	30.35	30.19	30.22
国語B	6.39	6.25	6.15	6.17	国語B	7.31	7.24	7.16	7.16
算数A	15.72	15.60	15.43	15.43	数学A	26.23	25.95	25.53	25.69
算数B	8.94	8.82	8.69	8.72	数学B	10.43	10.30	10.10	10.16

4. 習熟度別・少人数指導と学力層

今回の調査結果においては、習熟の遅いグループに対する少人数指導を多くの時間で行った学校ほど学力層Dの児童生徒の割合の少ない学校が多い傾向が見られ、習熟の遅いグループに対する少人数指導が児童生徒の学力の底上げと関連があると考えられる。

また、習熟の早いグループに対する発展的指導を多くの時間で行った学校ほど、発展的指導を行っていない学校よりも学力層Aの児童生徒の割合の多い学校が多い傾向が見られ、習熟の早いグループに対する発展的指導が児童生徒の学力を伸ばすことと関連があると考えられる。

(1) 分析手法

習熟度別・少人数指導の効果として、習熟の遅いグループの児童生徒の学力を底上げする効果があると考えられる。また、習熟の早いグループの児童生徒の学力を伸ばす効果があると考えられる。このことを踏まえて習熟度別・少人数指導の効果进行分析するため、児童生徒を4つの学力層に分けて、習熟度別・少人数指導を実施した学校とそうでない学校とにおいて、学力層別の児童生徒の割合の状況を分析することとした。

具体的には、集計対象学校における正答数分布のヒストグラム(図2)において児童生徒の学力層を四分位により分類し、正答数の多い層から学力層A, B, C, Dとした。その上で、学校における学力層Dの割合が集計対象学校全体における学力層Dの割合を下回っている学校の比率を習熟の遅いグループに対する少人数指導の有無別に求めた。

同様に、学校における学力層Aの割合が集計対象学校全体における学力層Aの割合を上回っている学校の比率を、習熟の早いグループに対する発展的指導の有無別に求めた。

なお、集計対象学校全体における学力層Dと学力層Aの児童生徒の割合は、表5のとおりである。

図2 集計対象小学校における国語Aの正答数分布

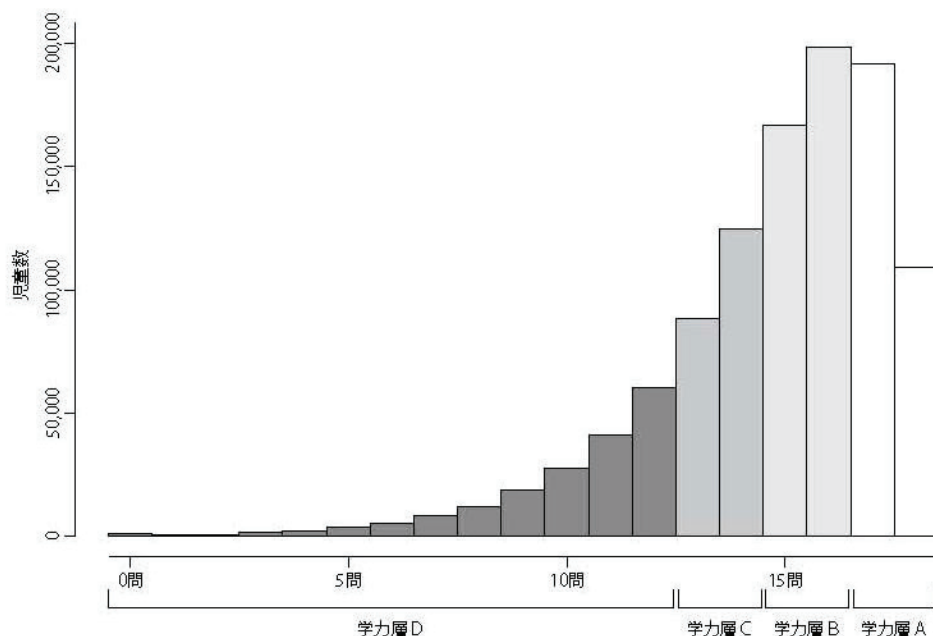


表5 学力層Dと学力層Aの割合

	集計対象小学校		集計対象中学校	
	学力層D	学力層A	学力層D	学力層A
国語 A	17.39%	28.26%	22.02%	30.74%
国語 B	17.23%	37.87%	22.51%	37.16%
算数 A	22.13%	37.59%	24.98%	28.59%
算数 B	22.18%	33.58%	21.69%	28.84%

(2) 分析結果

① 習熟の遅いグループに対する少人数指導と学力層Dの割合の関係

集計結果は表6のとおりであり、習熟の遅いグループに対して多くの時間で少人数指導を行った学校ほど、少人数指導を行っていない学校よりも学力層Dの児童生徒の割合が少ない学校が多い傾向が見られた。

表6 習熟度別・少人数指導と学力層Dの割合

小学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
	国語 A	58.08%	53.31%	52.81%
国語 B	55.30%	51.64%	52.66%	53.46%
算数 A	56.05%	51.65%	49.56%	51.71%
算数 B	53.17%	50.65%	49.18%	51.71%

中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
	国語 A	57.18%	55.10%	55.30%
国語 B	60.94%	56.80%	55.06%	54.55%
数学 A	57.62%	53.12%	49.19%	52.44%
数学 B	59.82%	54.61%	53.26%	52.36%

学校種別に見ると、小学校においては、国語A、算数Aで多くの時間で少人数指導を行った学校と少人数指導を行っていない学校の学力層Dの児童生徒の割合の差（約5ポイント）の方が、国語B、算数Bでの差（約2ポイント）より大きくなっている。一方、中学校においては、国語B、数学A、数学Bで多くの時間で少人数指導を行った学校と少人数指導を行っていない学校の学力層Dの児童生徒の割合の差（約6～8ポイント）の方が、国語Aでの差（約2ポイント）より大きくなっている。

②習熟の早いグループに対する発展的指導と学力層Aとの関係

集計結果は表7のとおりであり、習熟の早いグループに対して多くの時間で発展的指導を行った学校ほど、発展的指導を行っていない学校よりも学力層Aの児童生徒の割合が多い学校が多い傾向が見られた。

表7 習熟度別・少人数指導と学力層Aの割合

小学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
国語A	54.55%	49.92%	44.19%	44.27%	国語A	51.74%	51.66%	46.89%	46.71%
国語B	53.41%	46.86%	43.90%	45.33%	国語B	54.78%	53.27%	47.95%	48.42%
算数A	51.86%	46.88%	40.48%	40.97%	数学A	50.16%	46.32%	41.21%	43.88%
算数B	50.18%	45.45%	39.51%	41.11%	数学B	52.46%	47.97%	42.01%	45.47%

学校種別に見ると、小学校においては、国語A、算数Aで多くの時間で発展的指導を行った学校と発展的指導を行っていない学校の学力層Aの児童生徒の割合の差（約11～15ポイント）の方が、国語B、算数Bでの差（約6～10ポイント）より大きくなっている。一方、中学校においては、国語B、数学Bで多くの時間で発展的指導を行った学校と発展的指導を行っていない学校の学力層Aの児童生徒の割合の差の方が、国語A、数学Aでの差より大きくなっている。

③他の要因の影響に関する分析

上記①、②については、地域差等の他の要因によることが考えられる。このことが地域差などの影響を考慮した場合でも認められるかどうかを確かめるため、

- ・ 学力層Dの児童生徒の割合が全国平均を下回ったかどうか
- ・ 学力層Aの児童生徒の割合が全国平均を上回ったかどうか

を基準変数とし、習熟度別・少人数指導質問項目（基準変数が学力層Dの場合は少人数指導、学力層Aの場合は発展的指導）の1項目に学級数、地域規模区分、就学援助の3つの項目を加えた4項目を説明変数としてロジスティック回帰分析¹を行った（別表1・別表2）。

この結果、一般に多くの指導を行ったという回答選択肢ほど係数が大きく、地域差などの影響を考慮した場合であっても、学力層Dの児童生徒の割合が全国平均を下回った学校の割合、学力層Aの児童生徒の割合が全国平均を上回った学校の割合が多いことが示された。

(3) 結論

今回の調査結果においては、習熟の遅いグループに対する少人数指導を多くの時間で行った学校ほど、少人数指導を行っていない学校よりも学力層Dの児童生徒の割合が少ない学校が多い傾向が見られ、習熟の遅いグループに対する少人数指導が児童生徒の学力の底上げに関連があると考えられる。

また、習熟の早いグループに対する発展的指導を多くの時間で行った学校ほど、発展的指導を行っていない学校よりも学力層Aの児童生徒の割合が多い学校が多い傾向が見られ、習熟の早いグループに対する発展的指導は児童生徒の学力を伸ばすことに関連があると考えられる。

5. 習熟度別・少人数指導と学習に対する関心・意欲・態度

(1) 分析手法

習熟度別・少人数指導の質問項目に関連して、当該項目と児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度に関する児童生徒質問紙調査項目との関係について分析を行った。具体的には、

- ・ 国語，算数／数学の勉強が好きか
- ・ 国語，算数／数学の勉強は大切と思うか
- ・ 国語，算数／数学の授業の内容はよく分かるか

という質問項目について、学校において「当てはまらない」又は「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒の割合が集計対象学校全体における割合を下回っている学校の比率を習熟度別・少人数指導質問項目への回答別に求めた。

(2) 分析結果

集計結果は表8・表9のとおりであり、習熟度別・少人数指導を行った学校では、習熟度別・少人数指導を行っていない学校よりも、

- ・ 国語，算数／数学の勉強が好きでない
- ・ 国語，算数／数学の勉強は大切と思わない
- ・ 授業の内容がよく分からない

といった児童生徒の割合が少ない学校が多い傾向が見られる。

表 8 習熟度別・少人数指導と消極的態度の児童（小学校）

習熟の遅いグループに対する少人数指導

小学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
「国語の勉強が好きだ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	51.89%	50.87%	49.47%	49.08%
「国語の勉強は大切だ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	57.70%	56.86%	55.58%	54.21%
「国語の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	55.93%	53.83%	51.50%	50.88%
「算数の勉強が好きだ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	56.46%	48.19%	41.97%	45.93%
「算数の勉強は大切だ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	57.20%	54.10%	51.51%	53.75%
「算数の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	56.97%	49.46%	45.42%	48.93%

習熟の早いグループに対する発展的指導

小学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
「国語の勉強が好きだ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	53.79%	54.50%	49.58%	47.72%
「国語の勉強は大切だ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	60.23%	60.81%	55.27%	53.13%
「国語の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	57.95%	56.92%	51.38%	50.36%
「算数の勉強が好きだ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	60.74%	51.74%	44.80%	44.03%
「算数の勉強は大切だ」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	59.21%	55.77%	52.06%	52.35%
「算数の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした児童が少ない学校の割合	60.47%	53.65%	45.98%	46.16%

表 9 習熟度別・少人数指導と消極的態度の生徒（中学校）

習熟の遅いグループに対する少人数指導

中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
「国語の勉強が好きだ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	52.83%	52.37%	49.12%	49.43%
「国語の勉強は大切だ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	57.31%	59.89%	56.94%	56.22%
「国語の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	56.13%	56.08%	51.23%	51.08%
「数学の勉強が好きだ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	53.03%	47.65%	45.97%	49.15%
「数学の勉強は大切だ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	58.95%	52.65%	49.88%	52.40%
「数学の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	56.37%	51.06%	49.06%	52.64%

習熟の早いグループに対する発展的指導

中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
「国語の勉強が好きだ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	57.39%	54.31%	48.71%	48.73%
「国語の勉強は大切だ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	56.96%	60.85%	57.79%	54.93%
「国語の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	59.13%	55.87%	51.58%	51.06%
「数学の勉強が好きだ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	54.84%	50.14%	45.81%	47.09%
「数学の勉強は大切だ」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	59.45%	55.15%	51.40%	51.25%
「数学の授業内容はよくわかる」を当てはまらないとした生徒が少ない学校の割合	58.97%	52.73%	49.40%	50.79%

6. 留意事項

本分析は、平成 19 年度全国学力・学習状況調査の実施時点における児童生徒の学力や学校の状況について分析を行ったものであるが、習熟度別・少人数指導と学力の関係については、少人数指導の態様などの様々な要因に影響されると考えられること、また、より厳密に指導の効果を測定するためには、指導実施の前後における当該児童生徒の変化を見ることが有効であると考えられる。

このため、習熟度別・少人数指導に関する分析については、本分析のみではなく、実地調査等を含む専門的な研究においてその効果を測っていくことも有効であると考えられる。

注

1. ロジスティック回帰分析とは、生存／死亡、疾病の有無など、あり／なしの二値で表される現象を解析する方法である。本分析では、「学力層 A (D) の割合が全国の割合を上回って（下回って）いる／いない」を明らかにしようとしている。別表 1・2 は、習熟度別少人数指導、学級数、地域規模区分、就学援助が、「学力層 A (D) の割合が全国の割合を上回る（下回る）かどうか」に関係しているかどうかを分析した結果である。係数を見ると、習熟度別少人数指導を多くの時間で行っているほど係数が大きくなっている。すなわち、習熟度別少人数項目を多くの時間で行うほど、「学力層 A (D) の割合が全国の割合を上回る（下回る）」確率が高くなることを示している。

別表 1 ロジスティック回帰分析結果（集計対象小学校）

基準変数：国語 A の学力層 D が全国の割合を下回っている、あるいは学力層 A が全国の割合を上回っている

説明変数	(44) 少人数指導				(45) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	7.71		12.96		35.65		35.07	
多くの時間で行った			0.204		0.279		0.397		0.432
どちらかといえば行った			0.023		0.040		0.222		0.236
あまり行っていない			-0.005		0.008		-0.005		0.022
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		24.42		—		63.47	
地域規模区分	3	—		153.37		—		306.51	
(19) 就学援助	5	—		658.04		—		529.20	

基準変数：国語 B の学力層 D が全国の割合を下回っている、あるいは学力層 A が全国の割合を上回っている

説明変数	(44) 少人数指導				(45) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	4.54		6.87		15.12		14.39	
多くの時間で行った			0.070		0.162		0.324		0.378
どちらかといえば行った			-0.068		-0.046		0.062		0.084
あまり行っていない			-0.038		-0.027		-0.062		-0.029
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		48.55		—		146.94	
地域規模区分	3	—		337.03		—		605.89	
(19) 就学援助	5	—		768.89		—		639.35	

基準変数：算数 A の学力層 D が全国の割合を下回っている、あるいは学力層 A が全国の割合を上回っている

説明変数	(47) 少人数指導				(48) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	36.07		45.19		109.89		90.02	
多くの時間で行った			0.167		0.221		0.433		0.409
どちらかといえば行った			-0.007		0.024		0.238		0.220
あまり行っていない			-0.093		-0.070		-0.020		-0.011
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		19.81		—		37.40	
地域規模区分	3	—		103.98		—		300.11	
(19) 就学援助	5	—		530.18		—		430.22	

基準変数：算数 B の学力層 D が全国の割合を下回っている、あるいは学力層 A が全国の割合を上回っている

説明変数	(47) 少人数指導				(48) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	12.07		17.66		91.72		65.68	
多くの時間で行った			0.056		0.108		0.363		0.317
どちらかといえば行った			-0.041		-0.018		0.172		0.138
あまり行っていない			-0.102		-0.078		-0.065		-0.062
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		61.68		—		153.65	
地域規模区分	3	—		225.95		—		474.37	
(19) 就学援助	5	—		678.88		—		554.28	

別表2 ロジスティック回帰分析結果（集計対象中学校）

基準変数：国語Aの学力層Dが全国の割合を下回っている、あるいは学力層Aが全国の割合を上回っている

説明変数	(46) 少人数指導				(47) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	0.97		2.71		14.69		10.94	
多くの時間で行った			0.089		0.176		0.198		0.184
どちらかといえば行った			0.022		0.040		0.201		0.185
あまり行っていない			0.033		0.028		0.015		0.034
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		2.91		—		4.95	
地域規模区分	3	—		100.63		—		126.88	
(21) 就学援助	5	—		474.09		—		373.74	

基準変数：国語Bの学力層Dが全国の割合を下回っている、あるいは学力層Aが全国の割合を上回っている

説明変数	(46) 少人数指導				(47) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	7.24		11.48		16.56		10.76	
多くの時間で行った			0.253		0.344		0.239		0.208
どちらかといえば行った			0.088		0.100		0.197		0.172
あまり行っていない			0.023		0.010		-0.008		0.005
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		15.39		—		3.90	
地域規模区分	3	—		97.04		—		156.79	
(21) 就学援助	5	—		622.52		—		542.02	

基準変数：数学Aの学力層Dが全国の割合を下回っている、あるいは学力層Aが全国の割合を上回っている

説明変数	(49) 少人数指導				(50) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	28.04		24.19		31.56		24.27	
多くの時間で行った			0.204		0.186		0.240		0.234
どちらかといえば行った			0.031		0.045		0.092		0.105
あまり行っていない			-0.127		-0.146		-0.103		-0.071
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		9.50		—		22.36	
地域規模区分	3	—		103.22		—		197.79	
(21) 就学援助	5	—		476.36		—		360.12	

基準変数：数学Bの学力層Dが全国の割合を下回っている、あるいは学力層Aが全国の割合を上回っている

説明変数	(49) 少人数指導				(50) 発展的指導				
	自由度	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数	Wald χ^2	係数
習熟度項目	3	29.38		21.73		42.70		33.38	
多くの時間で行った			0.298		0.271		0.272		0.261
どちらかといえば行った			0.090		0.100		0.103		0.111
あまり行っていない			0.041		0.026		-0.128		-0.101
全く行っていない			0.000		0.000		0.000		0.000
学級数	2	—		17.02		—		7.87	
地域規模区分	3	—		99.05		—		211.52	
(21) 就学援助	5	—		608.73		—		417.72	

3. 学力層に着目した指導方法等に関する分析

1. 分析内容とその視点

本分析は、児童生徒の各教科別学力層に着目し、①指導方法等に関する取組が、各学校における高学力層および低学力層の割合の増減に関連するか否かを検証するとともに、②指導方法等に関する取組が、低学力層の児童生徒の関心・意欲・態度と関連するか否かを検証するものである。

2. 分析対象等

(1) 分析する質問紙項目

本分析においては、学校における指導方法等に関する質問項目として、学校質問紙調査の項目から表1の事項に関する分析を行った。

表1 分析を行った質問紙項目

質問項目	学校質問紙番号（小学校／中学校）
施設・整備	(22/24) 学校の教育用コンピュータ 1 台当たりの児童生徒数 (23/25) 学校の職員用コンピュータ 1 台当たりの職員数 (24/26) 普通教室に教育用コンピュータが設置されていますか (25/27) 普通教室にLANが整備されていますか (26/28) 学校図書館図書標準が達成されていますか (27/29) 少人数指導を行うための学習スペースはありますか
学力向上に向けた取組	(30/32) 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか (31/33) 学校図書館を活用した授業を計画的に行っていますか (32/34) ICTを活用した授業を行っていますか (33/35) 放課後を利用した補足的な学習サポートを実施していますか (35/37) 長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施していますか
学力把握	(40/42) 学校として採用する標準学力調査を行いましたか (41/43) 学年末テストや学期末テストの結果の分析を行いましたか (42/44) 単元テストや小テストの結果の分析を行いましたか
個に応じた指導	(43/45) 国語の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにしましたか (44/46) 国語の授業で習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしましたか (45/47) 国語の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行いましたか (46/48) 算数／数学の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにしましたか (47/49) 算数／数学の授業で習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしましたか (48/50) 算数／数学の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行いましたか
国語の指導方法	(49/51) 補足的な学習の指導を行いましたか (50/52) 発展的な学習の指導を行いましたか (51/53) 家庭学習の課題(宿題)を与えましたか (52/54) 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか

	(53/55) 書く習慣を付ける授業を行いましたか (54/56) 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか (55/57) 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか (56) 第6学年の国語の授業では、教科担任制を実施していましたか（小学校のみ）
算数／数学の指導方法	(57/58) 補充的な学習の指導を行いましたか (58/59) 発展的な学習の指導を行いましたか (59/60) 家庭学習の課題（宿題）を与えましたか (60/61) 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか (61/62) 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか (62) 第6学年の算数の授業では、教科担任制を実施していましたか（小学校のみ）
地域の人材・施設の活用	(65/65) 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか (66/66) ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか (67/67) 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか
教員研修	(88/88) 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか (89/89) 基礎学力の定着について、研修を行っていますか (90/90) 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか (92/92) 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか

また、児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度に関する質問項目としては、表2の事項を用いた。

表2 児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度に関する質問項目

質問項目	児童生徒質問紙番号（小学校／中学校）
国語への関心等	(68/70) 国語の勉強は好きですか (69/71) 国語の勉強は大切だと思いますか (70/72) 国語の授業の内容はよく分かりますか (71/73) 読書は好きですか
算数／数学への関心等	(79/81) 算数／数学の勉強は好きですか (80/82) 算数／数学の勉強は大切だと思いますか (81/83) 算数／数学の授業の内容はよく分かりますか

（2）学力層の考え方

学力層は、本調査の集計対象となった児童生徒全員の正答数分布の状況から四分位により分類し、正答数の高い順に、学力層 A、学力層 B、学力層 C、学力層 D としたものである。例えば、小学校国語 A では、学力層 A には 17 問以上正答した児童、学力層 B には 15 問から 16 問正答した児童、学力層 C には 13 問から 14 問正答した児童、学力層 D には 12 問以下正答した児童が分類される。図 1 に示したグラフは小学校国語 A の正答数の分布である。表 3 は、各教科における学力層と正答数の関係を示しており、表 4 は、それぞれの学力層の平均正答数を示している。

本分析において平均正答数ではなく学力層を用いるのは、学校における指導方法等が各学校における児童生徒の正答数の分布と関連しているかを検証するためである。ある指導方法等に取り組んでいる学校の平均正答数が高いとしても、その平均正答数の高さが、学力が高い層が多いことに由来するものなのか、学力が低い層が少ないことに由来するものなのかは分からない。ある指導方法等が高学力層を増やしているのか、低学力層を減らしているのかを検証するため、本分析では各学校における学力層の割合を用いる。

図1 集計対象小学校に在籍する児童の国語Aの正答数分布

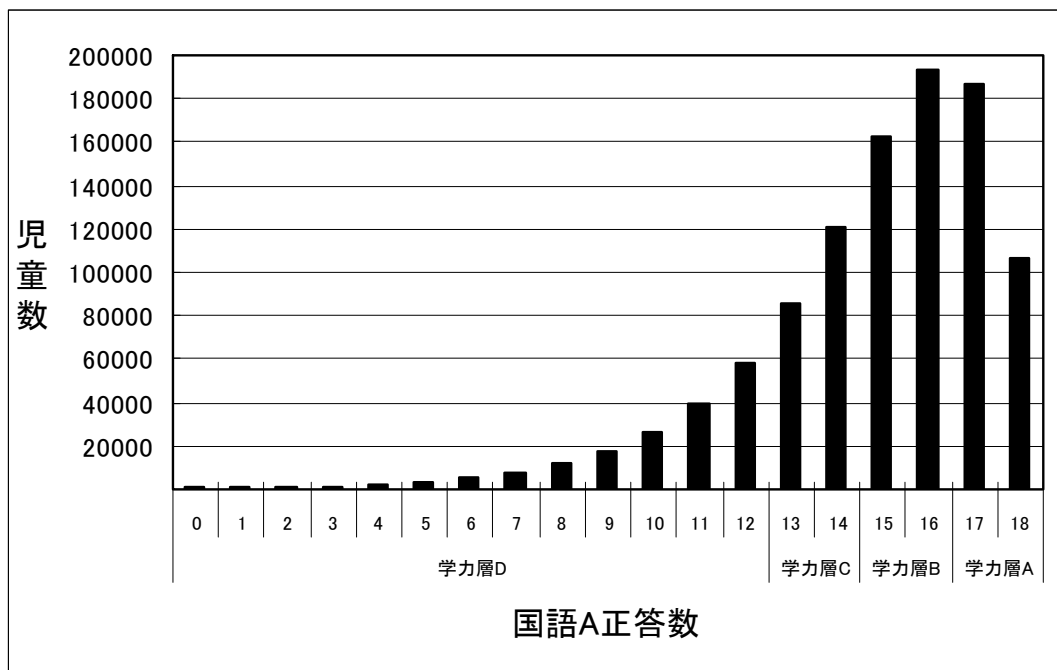


表3 学力層と正答数の関係

学力層	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
A層	17~18問	8~10問	18~19問	11~14問	34~37問	9~10問	33~36問	14~17問
B層	15~16問	7問	17問	9~10問	32~33問	8問	29~32問	11~13問
C層	13~14問	4~6問	14~16問	7~8問	28~31問	6~7問	21~28問	7~10問
D層	0~12問	0~3問	0~13問	0~6問	0~27問	0~5問	0~20問	0~6問

表4 集計対象校に在籍する児童生徒の学力層別の平均正答数

学力層	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
A層	17.36問	8.80問	18.52問	12.05問	35.03問	9.43問	34.50問	15.19問
B層	15.54問	7.00問	17.00問	9.51問	32.53問	8.00問	30.62問	12.05問
C層	13.59問	5.14問	15.16問	7.54問	29.73問	6.58問	24.90問	8.56問
D層	10.03問	1.91問	10.25問	4.53問	22.06問	3.39問	13.15問	3.87問

(3) 分析対象校

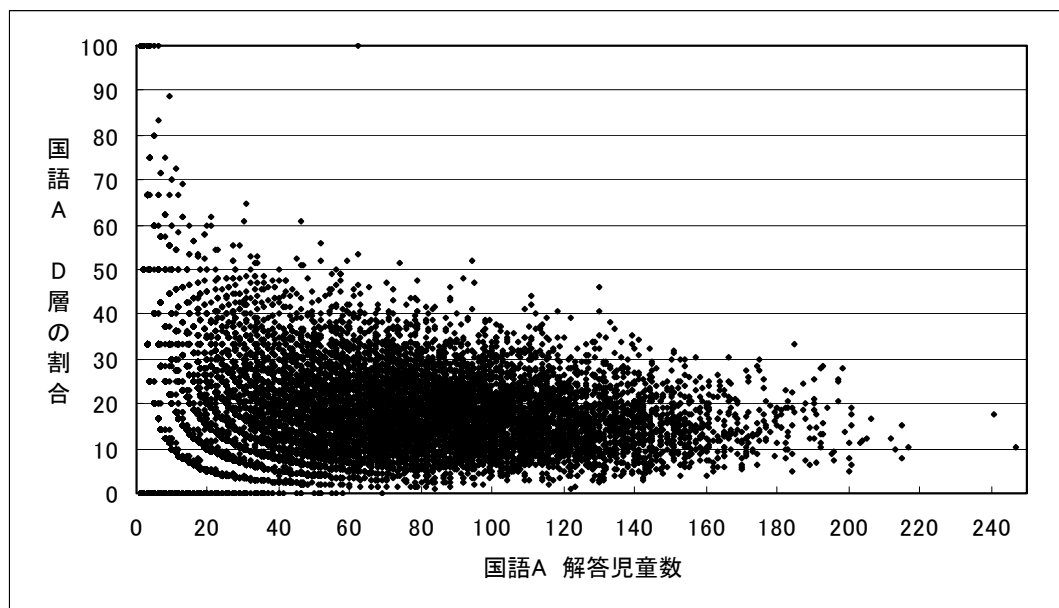
各学校における学力層の割合に着目した分析を行うためには、分析対象校の児童生徒数を考慮することが必要である。小規模校では、児童生徒1人の正答数とその学校の学力層の比率に与える影響が大きくなり、ばらつきが大きくなるためである。例えば、児童数が1人の学校で、その児童の学力層がAであれば、その学校の学力層Aの割合が100%になる。

以下の図は、小学校国語Aの解答児童数と学力層Dの児童の割合で公立小学校をプロットしたものである。これによると、学校における解答児童数が少ないほど、各学校における

学力層 D の児童の割合は個々の児童の学力層の影響を受けやすくなり、ばらつきが大きくなっている。このため、学力層 D の割合が極端に少ない、又は多い学校は解答児童数も少ない学校が多い。

そこで、本分析においては、分析対象を、小学校第 6 学年（中学校第 3 学年）の全教科における解答児童生徒数が 21 名以上の公立校とした。

図 2 解答児童数と学力層 D の割合



3. 指導方法等に関する取組と学校における学力層の割合についての分析

児童生徒の各教科別学力層に着目し、指導方法等に関する取組の違いが、各学校における学力層の割合の増減に関連するか否かを分析した。

その結果、指導方法等に関する取組が、学力層 A 及び学力層 D の両方の割合を増加／減少させるタイプ、学力層 A 又は学力層 D の割合のどちらかのみを増加／減少させるタイプ、さらに、両層に関連しながらも、学力層 A 又は学力層 D のいずれかをより強く増加／減少させるタイプが見いだされた。

(1) 指導方法等と学校における学力層 A 及び学力層 D の割合との関係

①分析方法

各教科別に、指導方法等に関する取組の違いと学校における学力層 A、D の割合との関連を分析した。

②分析結果

学力層 A の児童生徒と学力層 D の児童生徒の割合に着目し、指導方法等の取組の違い（「多

くの時間で行った」～「全く行っていない」あるいは「はい」～「いいえ」)により、それぞれの割合の変化が、一貫して減少/増加するか否かを検討した(図3-1～3-5)。なお、質問項目の4段階の選択肢については、「全くない」と答えた学校が100未満の場合に限って、「あまりない」と「全くない」と回答した学校を併せ、4段階の選択肢を3段階の選択肢として扱った。

「一貫して減少または増加が見られる」項目とは、ある指導方法等をよく行っていればいほど、学力層 A の割合は高く、学力層 D の割合が低いことを意味する。逆に、指導方法等を全く行っていなければ、学力層 A の割合が低く、学力層 D の割合が高いことを意味する。さらに、これらの結果に加えて、上限値と下限値に1.7ポイント以上の差(小数点以下第2位を四捨五入)があることを、「一貫した減少/増加」項目とする判断基準とした。

「一貫した減少/増加」を取り上げた理由は、その指導方法等を行うことと学力層の割合とが関連を持つとより確実に判断できるからである。

表5に、「指導方法の取組の違い」や「指導にかかわる活動の有無等」と学力層 A, D の割合との関連を示す。学力層 A 及び D で、その割合が一貫して増加/減少した場合を AD で、いずれか一方の場合を A, 又は D と記した。

また、表6は、表5で指導方法等と学力層の割合の関連が見られた場合について、取組により学力層の割合にどのくらいの差が見られたのか、数値を示している。

これらの分析を行った結果、学力層 A 又は学力層 D に関連するかという観点から、以下のように項目が分類される。

1) 学力層 A 及び学力層 D の両方で関連が見られた項目

- ・国語 A と国語 B もしくは算数/数学 A と算数/数学 B の両方に関連が見られた項目

[施設・設備]

(中 26)普通教室に教育用コンピュータが設置されている(数学)

(中 27)普通教室に LAN が整備されている

[国語の指導方法]

(中 53)家庭学習の課題(宿題)を与えた

(小 52/中 54)目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った

(小 53/中 55)書く習慣を付ける授業を行った

(小 54/中 56)様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った

[算数/数学の指導方法]

(中 60)家庭学習の課題(宿題)を与えた

(小 60/中 61)実生活における事象との関連を図った授業を行った

[教員研修]

(小 92)教員が、他校や外部の研修期間などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

- ・国語 A もしくは算数/数学 A にのみ関連が見られた項目

[国語の指導方法]

(小 55)漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った

2) 学力層 A との関連が見られた項目

【国語の指導方法】

(小 50 / 中 52) 発展的な学習の指導を行った

【算数 / 数学の指導方法】

(小 58 / 中 59) 発展的な学習の指導を行った

【地域の人材・施設の活用】

(小 66) ボランティア等による授業サポート (補助) を行った

(小 88) 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている

3) 学力層 D との関連が見られた項目

【算数 / 数学の指導方法】

(小 59) 家庭学習の課題 (宿題) を与えた (算数 A)

4) 学力層 A と学力層 D の両方に関連しながら、学力層 A により強い関連が見られた項目

【地域の人材・施設の活用】

(小 67 / 中 67) 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った

5) 学力層 A と学力層 D の両方に関連しながら、学力層 D により強い関連が見られた項目

【学力向上】

(小 30 / 中 32) 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている

【地域の人材・施設の活用】

(中 65) 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った

図 3-1 学力層 A 及び D の両方で一貫した増加 / 減少が見られる項目の例

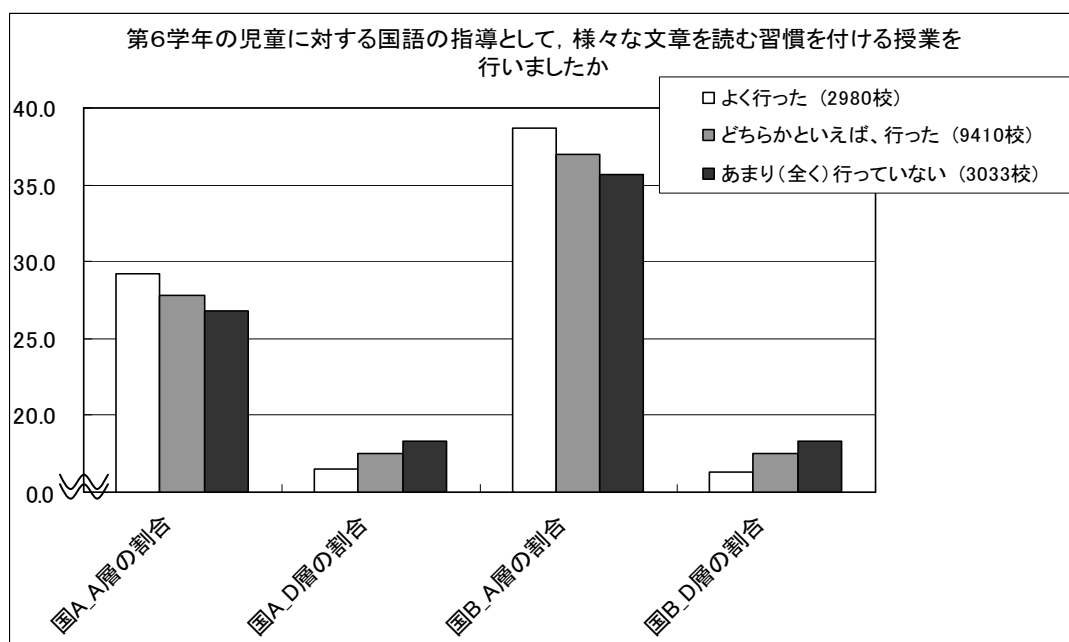


図3-2 学力層Aのみで一貫した増加が見られる項目の例

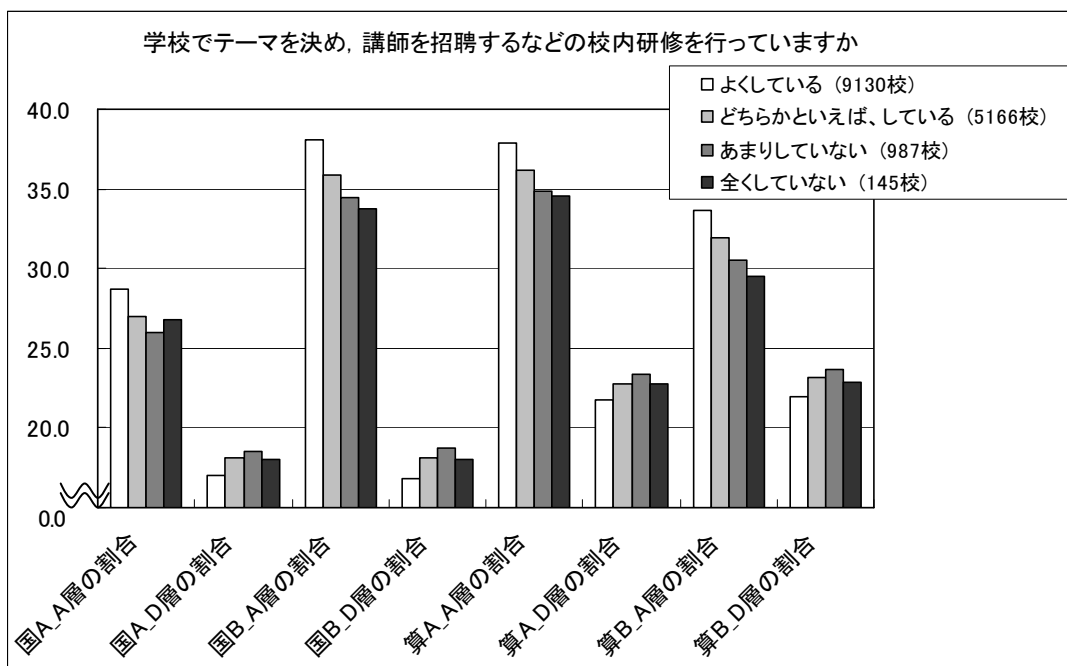


図3-3 学力層Dのみで一貫した減少が見られる項目の例

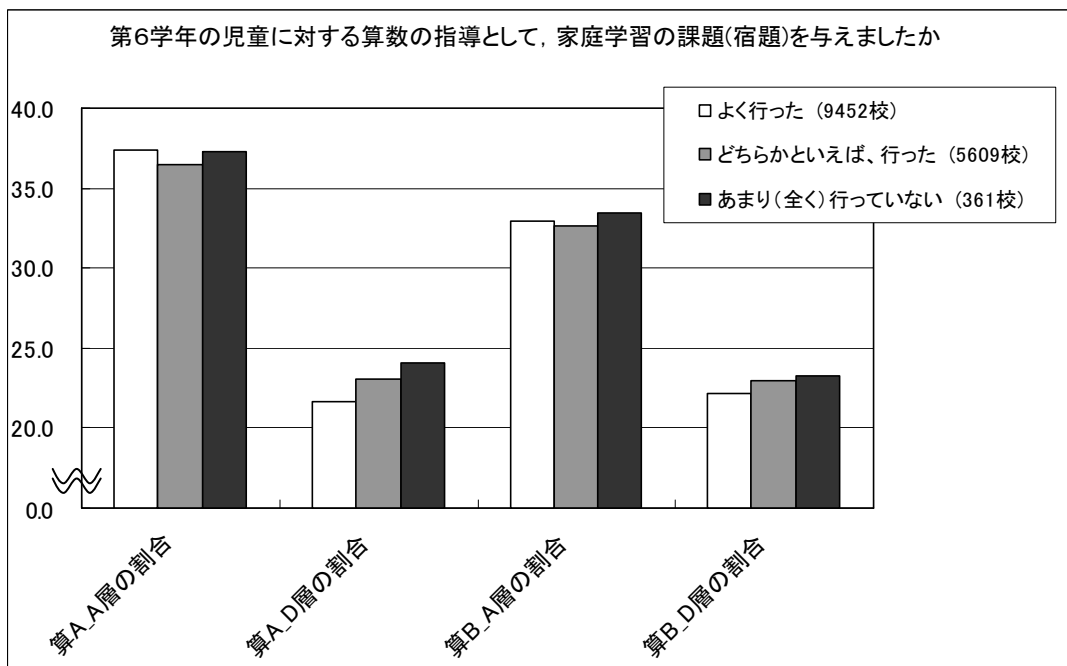


図3-4 学力層Aにより強い関連が見られる項目の例

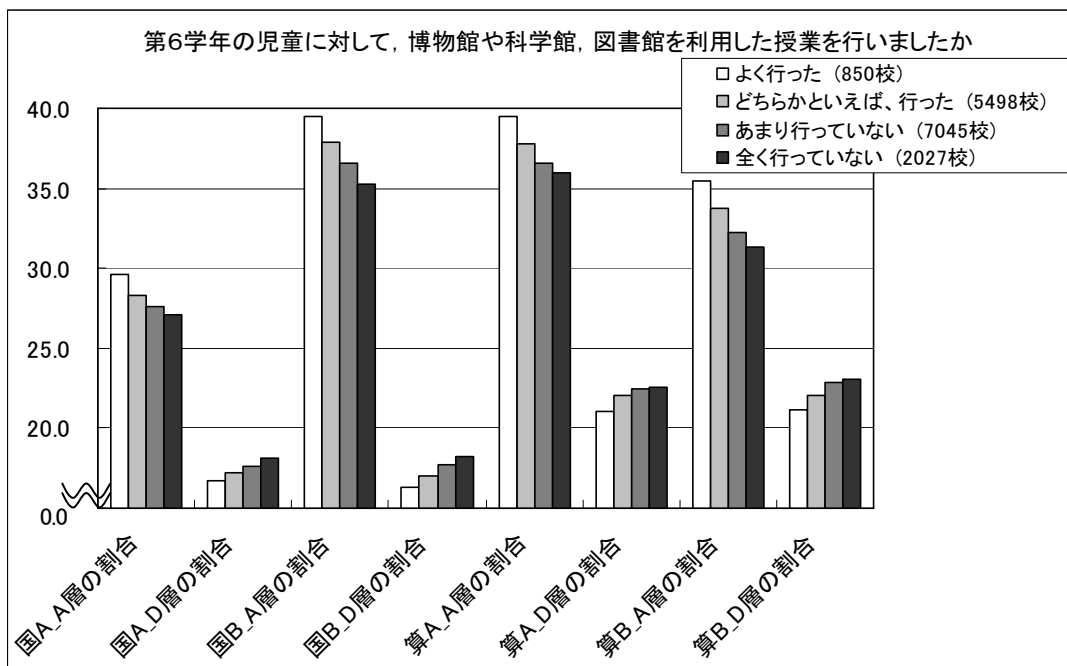


図3-5 学力層Dにより強い関連が見られる項目の例

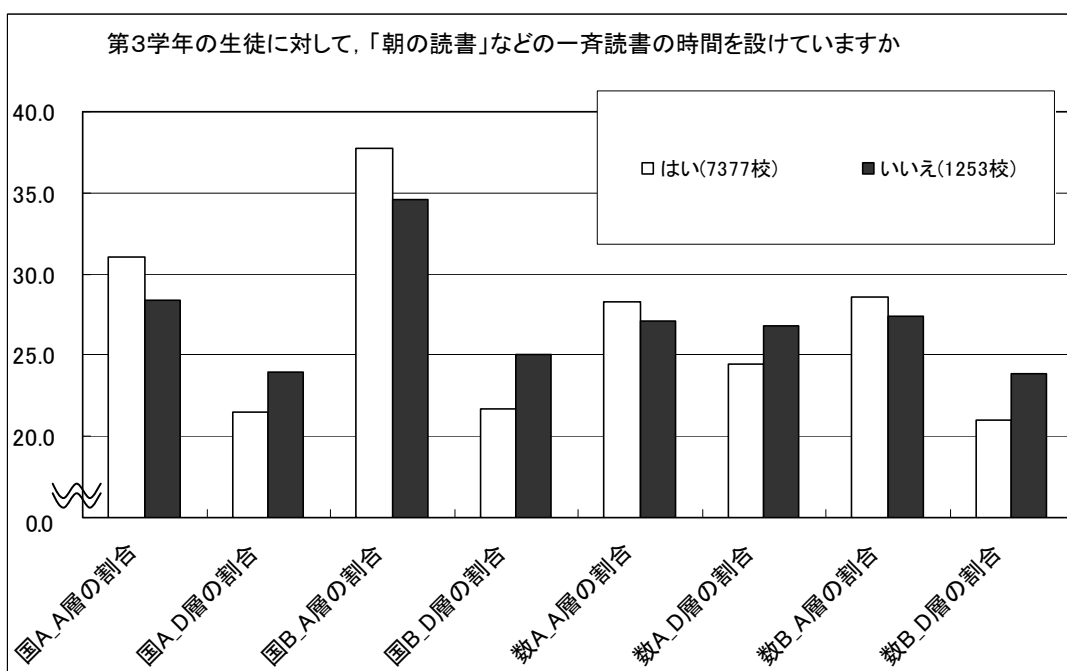


表5 指導方法等と学校における学力層A及び学力層Dの割合との関係

		小学校				中学校											
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B								
施設・設備	(24/26) 普通教室に教育用コンピュータが設置されていますか							A	D	A	D	A	D				
	(25/27) 普通教室にLANが整備されていますか							A	D	A	D	A	D	A	D		
向上 学力	(30/32) 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか	A	D			D	D	A	D	A	D		D		D		
国語の指導方法	(50/52) 発展的な学習の指導を行いましたか	A	—	—	—	—	—	A	—	A	—	—	—	—	—		
	(51/53) 家庭学習の課題(宿題)を与えましたか				—	—	—	A	D	A	D	—	—	—	—		
	(52/54) 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	A	D	A	D	—	—	—	—	A	D	A	D	—	—	—	—
	(53/55) 書く習慣を付ける授業を行いましたか	A	D	A	D	—	—	—	—	A	D	A	D	—	—	—	—
	(54/56) 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	A	D	A	D	—	—	—	—	A	D	A	D	—	—	—	—
(55/57) 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	A	D			—	—	—	—					—	—	—	—	
算数／数学の指導方法	(58/59) 発展的な学習の指導を行いましたか	—	—	—	—	A	—	A	—	—	—	—	—	A	—	A	—
	(59/60) 家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	—	—	—	—		D			—	—	—	—	A	D	A	D
	(60/61) 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	—	—	—	—	A	D	A	D	—	—	—	—	A	D	A	D
地域の人材・施設の活用	(65/65) 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	A	D	A	D	A	D	A	D	A	D	A	D		D		D
	(66/66) ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	A		A		A		A									
	(67/67) 博物館や科学館, 図書館を利用した授業を行いましたか	A		A	D	A		A	D	A	D			A	D	A	
教員研修	(88/88) 学校でテーマを決め, 講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか			A		A		A									
	(90/90) 模擬授業や事例研究など, 実践的な研修を行っていますか			A		A		D									
	(92/92) 教員が, 他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	A	D	A	D	A	D	D									

※ 「—」は、指導方法の教科や主な対象が、分析対象の教科や学力層と異なるため、分析に含めなかった項目である。

表6 指導方法等の取組と学力層 A 及び学力層 D の割合の差

※ 選択肢 1 を選んだ学校における学力層 A 及び学力層 D の割合と、選択肢 4 (4 段階の選択肢の場合) を選んだ学校における学力層 A 及び学力層 D の割合の差を示している。

※ 「■」は、指導方法の教科や主な対象が、分析対象の教科や学力層と異なるため、分析に含めなかった項目である。

小学校		国語 A		国語 B		算数 A		算数 B	
		学力層 A	学力層 D	学力層 A	学力層 D	学力層 A	学力層 D	学力層 A	学力層 D
向上力	(30)「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか	1.76%	-1.79%				-2.92%		-1.81%
国語の指導方法	(50)発展的な学習の指導を行いましたか	3.22%	—		—	—	—	—	—
	(52)目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	3.87%	-2.77%	4.60%	-3.45%	—	—	—	—
	(53)書く習慣を付ける授業を行いましたか	2.94%	-2.40%	3.49%	-2.46%	—	—	—	—
	(54)様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	2.43%	-1.79%	3.04%	-2.03%	—	—	—	—
	(55)漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	2.39%	-1.87%			—	—	—	—
算数の指導方法	(58)発展的な学習の指導を行いましたか	—	—	—	—	4.68%	—	4.54%	—
	(59)家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	—	—	—	—		-2.42%		
	(60)実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	—	—	—	—	4.00%	-3.59%	2.90%	-2.46%
地域の活用	(65)地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	2.39%	-1.66%	2.89%	-2.73%	3.05%	-2.59%	2.86%	-2.56%
	(66)ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	2.05%		3.40%		2.22%		2.91%	
	(67)博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	2.45%		4.23%	-1.93%	3.48%		4.14%	-1.93%
教員研修	(88)学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか			4.30%		3.30%		4.09%	
	(90)模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか			1.96%		2.07%			-1.73%
	(92)教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	2.17%	-1.69%	2.37%	-2.20%	2.32%	-2.23%		-1.79%

中学校		国語 A		国語 B		数学 A		数学 B	
		学力層 A	学力層 D	学力層 A	学力層 D	学力層 A	学力層 D	学力層 A	学力層 D
施設・設備	(26)普通教室に教育用コンピュータが設置されていますか			1.93%	-1.91%	1.71%	-1.98%	1.73%	-1.90%
	(27)普通教室にLANが整備されていますか	1.76%	-1.80%	2.33%	-2.18%	2.17%	-2.14%	2.19%	-2.09%
向上力	(32)「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか	2.67%	-2.42%	3.08%	-3.41%		-2.38%		-2.86%
国語の指導方法	(52)発展的な学習の指導を行いましたか	4.04%	—	4.42%	—	—	—	—	—
	(53)家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	3.17%	-2.63%	2.10%	-2.33%	—	—	—	—
	(54)目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	3.22%	-2.63%	3.90%	-3.26%	—	—	—	—
	(55)書く習慣を付ける授業を行いましたか	2.84%	-1.91%	2.49%	-2.22%	—	—	—	—
	(56)様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	2.56%	-1.86%	2.14%	-2.09%	—	—	—	—
数学の指導方法	(59)発展的な学習の指導を行いましたか	—	—	—	—	5.39%	—	5.00%	—
	(60)家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	—	—	—	—	4.47%	-5.34%	3.17%	-3.86%
	(61)実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	—	—	—	—	4.82%	-4.46%	5.31%	-4.79%
地域の活用	(65)地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	2.01%	-2.06%	2.47%	-2.31%		-2.54%		-2.41%
	(67)博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	3.60%	-2.91%			4.69%	-3.42%	4.42%	

(2) まとめ

分析の結果、「指導方法の取組の違い」や「指導にかかわる活動の有無等」と学校における学力層の割合との関連について、いくつかのタイプが見出された。A及びDの両層と関連を示すタイプ、A又はDの単独で関連を示すタイプ、また双方に関連しながらもA又はDのいずれかにより強い関連を示すタイプである。

「国語、算数／数学の指導方法」のうち関連の見られた項目については、取組の違いがA及びDの両層の割合と関連を示すタイプが多く見られ、これらの指導方法についての工夫が学力の向上に資する可能性がうかがえる。一方で、「国語、算数／数学の指導方法」以外の活動等のうち、学力層の割合との関連が見られた項目については、A及びDの両層だけでなく、いずれか一方の学力層に関連する、あるいは、関連の度合いが相対的に異なるなどいくつかのタイプが見られた。

このことから、各学校において、対象とする学力層との関連を踏まえた適切な指導等を行うことで、より高い成果が得られる可能性があると考えられる。

4. 各教科別に見た、指導方法等に関する取組と学力層Dの児童生徒の関心・意欲・態度との関連についての分析

指導方法等に関する取組の違いが、学力層Dの児童生徒の関心・意欲・態度と関連するかどうかを分析した。その結果、特に国語において、児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度と関連が見られる指導方法等が見られた。関連が見られた国語の指導方法は、「朝の読書」、「書く習慣」、「読む習慣」、「目的に応じて話し、聞く」、「漢字などの基本的事項への取り組み」などであり、基本的な事項や習慣を定着させる授業との関連が見られた。この傾向は、中学校においてより強く見られた。

(1) 分析方法

各教科の学力層別に、指導方法の取組の違いや指導にかかわる活動の有無等と、学習に対する関心・意欲・態度に関する項目において児童生徒が肯定的な回答をしている割合（以下、「肯定的回答率」という）が関連するかどうか分析した。「肯定的回答率」を求めるにあたり、関心・意欲・態度に関する項目についての「当てはまる」から「当てはまらない」までの4段階の選択肢を、肯定的な選択肢（「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」）と否定的な選択肢（「どちらかといえば、当てはまらない」+「当てはまらない」）の2段階にまとめた。その上で、「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答をした児童生徒の割合を「肯定的回答率」とした。

(2) 分析結果

学力層Dの児童生徒に焦点を当て、指導方法等の取組の違いと、学習に対する関心・意欲・態度に関する項目について、肯定的回答率が一貫して減少／増加し、かつその変化に2ポイント以上の差が認められるかどうかを分析した。指導方法等の取組の違いと肯定的回答率の

変化を図4-1から4-3に例示した。

図4-1 指導方法(55)の取組の違い(よく行った～全く行っていない)と関心・意欲・態度の肯定的回答率との関係(小学校・国語)

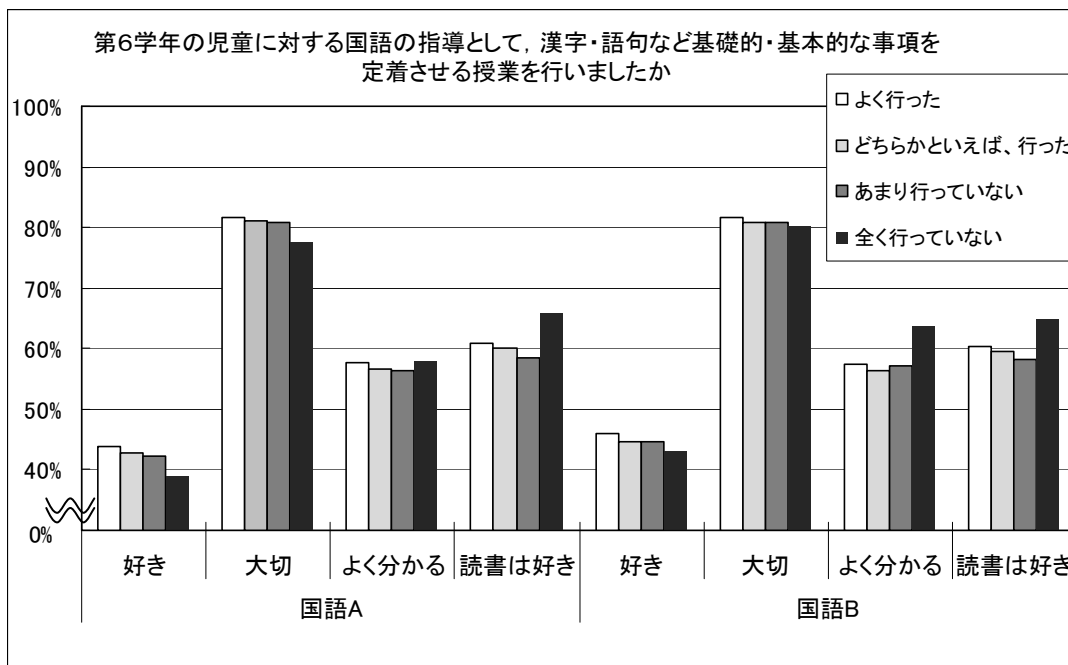


図4-2 学力向上(30)の取組の違い(はい～いいえ)と関心・意欲・態度の肯定的回答率との関係(小学校・算数)

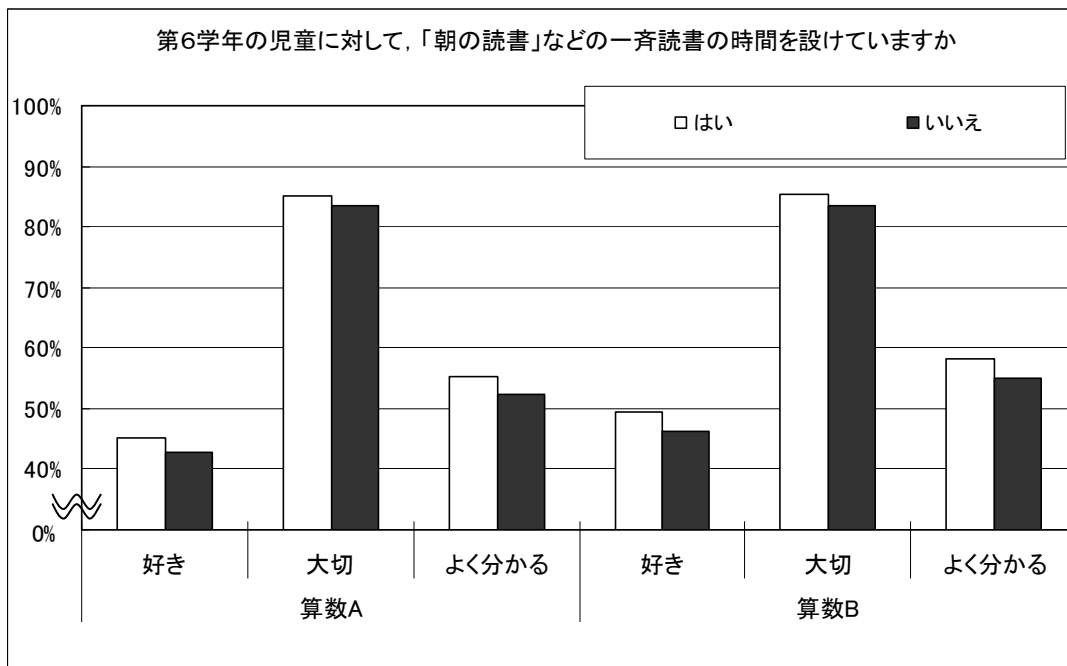
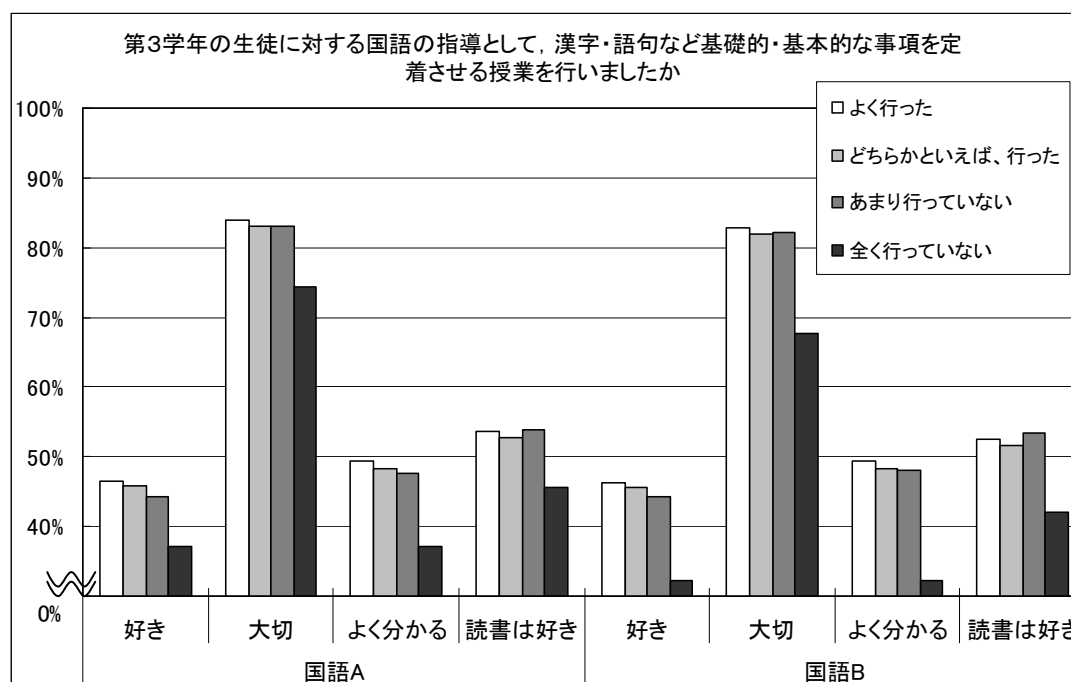


図4-3 指導方法(57)の取組の違い(よく行った～全く行っていない)と関心・意欲・態度の肯定的回答率との関係(中学校・国語)



また、指導方法等に関する取組の違いによって、児童生徒の肯定的回答率が一貫して高くなり、取組の違いによる肯定的回答率の差が2ポイント以上見られる項目を表7にまとめた。表中の数値は、指導方法等に関する取組の違いによる肯定的回答率の差である。

小学校の国語で関連が見られた項目は、「(30)『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」「(52)目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」「(53)書く習慣を付ける授業を行った」「(54)様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」「(55)漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った」である。

小学校の算数で関連が見られた項目は、「(30)朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」「(90)模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」である。

中学校の国語で関連が見られた項目は、小学校と同様の項目及び、「(90)模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」である。

中学校の数学で関連が見られた項目は、「(66)ボランティア等による授業サポート(補助)を行っている」「(88)学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている」である。

表7 指導方法等に関する取組と学力層Dの児童生徒の関心・意欲・態度との関連の要約

※表中において、学習指導等の取組に関する項目に対して、「よく行った」と回答している学校の児童生徒と、「全く行っていない」と回答をしている学校の児童生徒の間で、関心・意欲・態度の項目に対する肯定的回答率の差が2ポイント以上あるものを取り上げ、数値を記している。

小学校：国語	国語 A				国語 B			
	(68)国語の勉強は好きですか	(69)国語の勉強は大切だと思いますか	(70)国語の授業の内容はよく分かりますか	(71)読書は好きですか	(68)国語の勉強は好きですか	(69)国語の勉強は大切だと思いますか	(70)国語の授業の内容はよく分かりますか	(71)読書は好きですか
(30)「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか				4.54%				5.33%
(52)国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	2.74%							
(53)国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	6.61%	3.00%			5.27%			
(54)国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	4.45%		2.58%		4.99%	2.38%		
(55)国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	4.75%	4.01%			2.84%			

小学校：算数	算数 A			算数 B		
	(79)算数の勉強は好きですか	(80)算数の勉強は大切だと思いますか	(81)算数の授業の内容はよく分かりますか	(79)算数の勉強は好きですか	(80)算数の勉強は大切だと思いますか	(81)算数の授業の内容はよく分かりますか
(30)「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか	2.35%			2.78%	3.01%	3.28%
(90)模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか						2.53%

中学校：国語	国語 A				国語 B			
	(70)国語の勉強は好きですか	(71)国語の勉強は大切だと思いますか	(72)国語の授業の内容はよく分かりますか	(73)読書は好きですか	(70)国語の勉強は好きですか	(71)国語の勉強は大切だと思いますか	(72)国語の授業の内容はよく分かりますか	(73)読書は好きですか
(32)「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか				10.67%				10.23%
(54)国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	5.56%	3.81%	3.22%		5.59%	4.35%	2.79%	
(55)国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	6.84%	2.17%	7.49%		9.66%	3.62%	8.16%	2.44%
(56)国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	5.44%		4.30%	3.05%	5.77%	2.38%	5.53%	3.49%
(57)国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	9.42%		12.25%		13.99%		17.23%	
(90)模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか				4.15%				3.58%

中学校：数学	数学 A			数学 B		
	(81)数学の勉強は好きですか	(82)数学の勉強は大切だと思いますか	(83)数学の授業の内容はよく分かりますか	(81)数学の勉強は好きですか	(82)数学の勉強は大切だと思いますか	(83)数学の授業の内容はよく分かりますか
(66)第3学年の生徒に対して、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	2.16%			2.17%		
(88)学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	2.10%		2.03%			

(3) まとめ

分析の結果、指導方法等に関する項目への取組の違いと学力層Dの児童生徒の関心・意欲・態度に関係が見られた。

特に、国語への関心・意欲・態度については、基本的な事項を定着させる授業や、読み書きの習慣を付ける授業など、指導方法に関する項目への取組と関係が見られた。

5. 留意事項

本分析により、指導方法等に関する項目への取組の違いが、学力層の割合及び、学力層Dの児童生徒の関心・意欲・態度と関連していることが明らかとなった。

ただし、学力層の割合及び、学力層Dの児童生徒の関心・意欲・態度との関連が、個々の指導方法等の取組だけではなく、それらを総合した学校全体の取組等の違いによる可能性もあることに留意する必要がある。

指導方法等の効果をさらに詳細に見るためには、分析対象とした児童生徒や学校を巡る様々な要因も考慮した、実地調査等を含む専門的な分析も有効であると考えられる。

4. 「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた 学力・学習状況に関する分析・検証手法の開発

1. 学力・学習状況に関する分析・検証手法を活かした学校改善のねらいと特色

各学校、教育委員会等において、調査結果を分析・検証し、教育や教育施策の改善に取り組む際に参考となる手法として、『全国学力・学習状況調査結果チャート』を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法を開発した。本手法は、教科に関する調査及び質問紙調査の結果を、「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いて表現することにより、視覚的に各学校等の児童生徒の学力や学習状況等の特徴を把握することができるようにし、全国的な状況等との関係において自らの教育及び教育施策の成果や課題等を具体的に把握するための分析・検証を支援することをねらいとしている。

この手法が各学校等において活用されることにより、それぞれの成果や課題等に応じた具体的な改善方策等が作成され、改善が図られるとともに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立につながることを期待される。

(1) ねらい

全国学力・学習状況調査の目的には、各学校、教育委員会等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげるねらいがある。このような調査の目的を生かすためには、教育委員会等の支援のもと、各学校において自らの児童生徒の学力・学習状況等を全国学力・学習状況調査の結果（以下「調査結果」という。）から多面的な分析を行うことで明らかにし、それらを踏まえた上で、次なる学力向上に向けた取組や授業改善、学校運営の改善等の計画や具体的方策を作成し実行することが重要である。

このため、調査結果の分析・検証手法の一つとして、各学校等における教科に関する調査や質問紙調査の結果についてスコアで表現した「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いる児童生徒の学力・学習状況に関する分析・検証のための手法を開発した。

(2) 特色

「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法は、教科に関する調査及び質問紙調査から算出した各学校等のスコアを、各学校等における学力・学習状況の特徴を表す数値として「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いて表現することにより、視覚的に各学校等の児童生徒の学力・学習状況の特徴を把握することができる。これにより各学校、教育委員会等における具体的な改善方策等の作成に向けた分析・検証を支援しようとするものであり、

- ① 全国を基準に用いれば、全国の状況との関係における各学校等の学力・学習状況の位置づけ、

- ② 都道府県を基準に用いれば、都道府県の状況との関係における各学校等の学力・学習状況の位置づけ、
- ③ 各市町村等を基準に用いれば、各市町村等の状況との関係における各学校の学力・学習状況の位置づけ

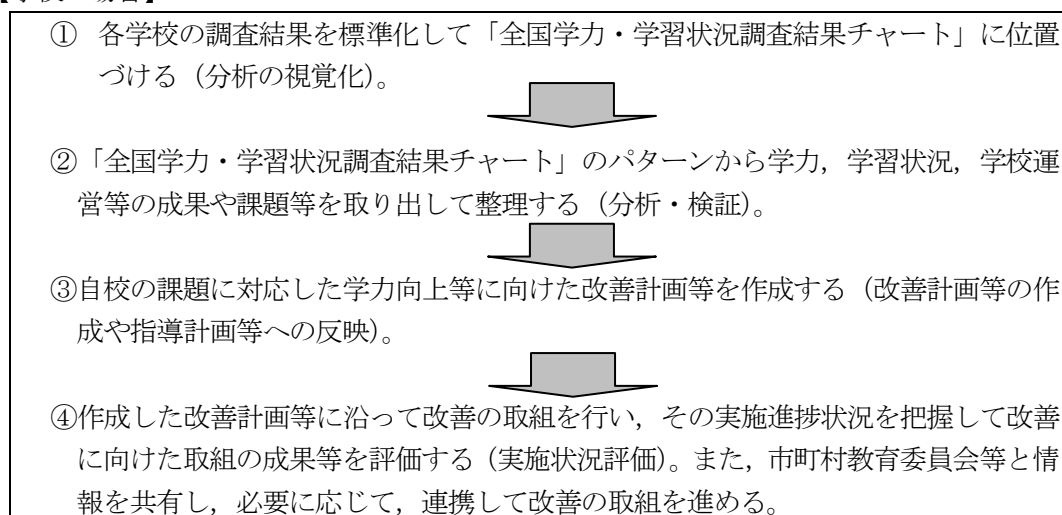
について把握することをねらいとした手法である。このため、各学校、教育委員会等においては、分析・検証しようとする観点に応じて、本手法を活用することが期待される。例えば、各市町村教育委員会において、域内の学校への支援等を検討するにあたり、域内における各学校の学力・学習状況や学力向上への取組状況等を俯瞰的に見る際に、各市町村を基準として、各学校の「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成し、活用することが考えられる。

本手法のメリットとしては、調査結果に基づく学力、学習状況、学校運営等の状況を視覚化することにより、全国学力・学習状況調査の結果を分析・検証する際に、数値データだけを見るよりも、全国、都道府県、市町村等のそれぞれにおける状況との関係において、各学校等の児童生徒の学力・学習状況の特徴が見出しやすくなり、その結果、調査結果を活かした分析・検証と改善の方針を把握し立てやすくなることがあげられる。

(3)「全国学力・学習状況調査結果チャート」の活用の流れ

各学校、教育委員会等が「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法を活用した分析・検証を行い、自らの教育及び教育施策の成果や課題等を把握し、その改善を図るに際して、次のような流れが想定される。

【学校の場合】



【教育委員会の場合】

①域内の各学校の調査結果を標準化して「全国学力・学習状況調査結果チャート」に位置づける（分析の視覚化）。



②それぞれの「全国学力・学習状況調査結果チャート」のパターンから学力、学習状況、学校運営等の成果や課題等を取り出して整理するとともに、各学校等の成果や課題等を取り出して整理する（分析・検証）。



③②で分かった課題やその他の分析結果等を参考にして、全体の教育施策や各学校等の実情を踏まえた支援等の改善方策等を検討する（改善方策等の検討や改善計画の作成等）。



④検討した教育施策や支援策等を実施する（改善方策等の実施）。

また、「全国学力・学習状況調査結果チャート」の活用にあたっては、各学校等に固有の諸条件を十分に考慮した上で活用を図り、その学校等における学力向上のための課題を解決するために工夫された改善計画等を作成したり、指導計画等に反映させて実施していくことが最も重要と考えられる。

ただし、本分析・検証手法は、あくまでも各学校等の課題の把握や、教育委員会の教育施策や学校に対する支援策の立案に役立てることが主眼であり、学校間の序列化や過度な競争等が生じないように十分に配慮を行うよう留意する必要がある。

2. 「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法の手順

「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法は、まず「全国学力・学習状況調査結果チャート」を以下の1)～3)の流れに沿って作成し、それを基に分析・検証を行うものである。

1) a.分析対象（学校等）

b.比較基準となる母集団（全国，都道府県，市町村等）

c.「全国学力・学習状況調査結果チャート」に用いる領域とそれを構成する質問項目の決定

2) 1)の基本的事項から各領域のスコアを算出する（詳細は別添参照）。

3) 2)で算出した各領域のスコアを用いて、「全国学力・学習状況調査結果チャート」を多角形の図として表現する。

今回は、学力・学習状況に関する分析・検証を行うための「全国学力・学習状況調査結果チャート」の基本的なものとして、

①教科に関する調査および児童生徒質問紙調査の結果から児童生徒の学力と学習状況の関係を12の領域のスコアから見る「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」(図1, 表1)

②教科に関する調査および学校質問紙調査の結果から児童生徒の学力と学校の指導方法や学

校運営との関係を 12 の領域のスコアから見る「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」（図 2，表 2）

の 2 つを提案する。これらの「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」と「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」は，教科学力だけでなく，児童生徒質問紙調査に含まれている学習に対する関心・意欲・態度，家庭での生活習慣や学習習慣，豊かな体験，規範意識，自尊感情等や，学校質問紙調査に含まれている教科指導の多様性，教員研修の充実，学校評価，学力向上に向けた取組，地域の人材・施設の活用，児童生徒の状況などについて，俯瞰的に見ることをねらいとしている。

図 1 「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」の例

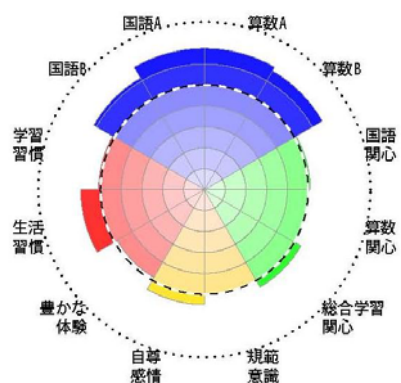


図 2 「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」の例

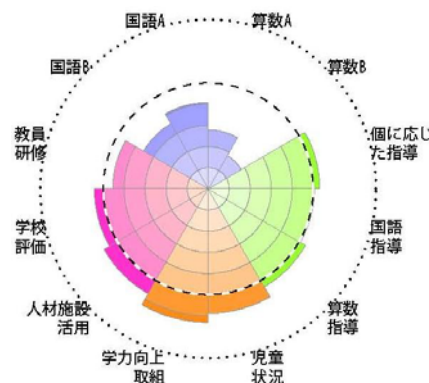


表 1 「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」の領域名と対応項目一覧

領域番号	領域名		小学校児童質問紙 対応領域・項目番号	中学校生徒質問紙 対応領域・項目番号	
I	1	教科学力	国語 A		
	2		算数／数学 A		
	3		国語 B		
	4		算数／数学 B		
II	5	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等	(68)～(78)	(70)～(78)
	6		算数／数学への関心等	(79)～(86)	(81)～(88)
	7		総合的な学習への関心等	(64)～(67)	(66)～(69)
III	8	規範意識・自尊感情	規範意識	(44)～(50)	(46)～(52)
	9		自尊感情	(9)～(12)	(9)～(12)
IV	10	学習の基盤となる体験・習慣	豊かな体験	(51)～(60)	(53)～(62)
	11		生活習慣	(1)～(8)	(1)～(8)
	12		学習習慣	(32)～(35)	(34)～(37)

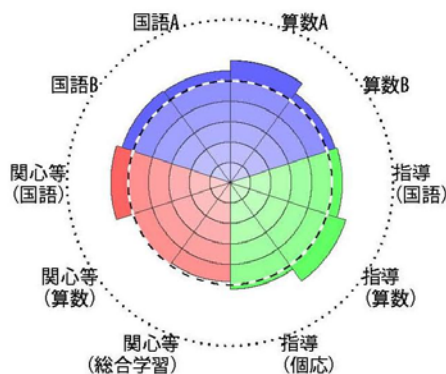
表2 「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」の領域名と対応項目一覧

領域番号		領域名		小学校学校質問紙 対応領域番号	中学校学校質問紙 対応領域番号
I	1	教科学力	国語 A		
	2		算数/数学 A		
	3		国語 B		
	4		算数/数学 B		
II	5	教科指導	個に応じた指導	(43)～(48)	(45)～(50)
	6		国語科の指導法	(49)～(55)	(51)～(57)
	7		算数/数学科の指導法	(57)～(61)	(58)～(62)
III	8	学力向上	児童生徒の状況	(16)～(17)	(16)～(17)
	9		学力向上に向けた取組	(28)～(35)	(30)～(37)
IV	10	学校運営	地域の人材・施設の活用	(65)～(69)	(65)～(69)
	11		開かれた学校・学校評価	(78)～(87)	(78)～(87)
	12		教員研修	(88)～(93)	(88)～(93)

「全国学力・学習状況調査結果チャート」は、各領域について算出したスコアの値を中心から放射状にプロットし、そのプロットした点を結んで円内に多角形のグラフを書く形にした(図1, 図2)。このグラフは、ある領域内の項目群の状況と領域間の状況を、視覚的に比較しやすくしていることに特徴がある。

また、学力・学習状況に関する分析・検証のために調査結果を視覚化する「全国学力・学習状況調査結果チャート」は、各教育委員会や学校等が何を分析するかという観点に応じて、領域の組み合わせを変えることが可能である。図3に、①教科学力、②学習に対する関心・意欲・態度(児童生徒質問紙調査)、③教科指導(学校質問紙調査)を組み合わせた「全国学力・学習状況調査結果チャート」のバリエーション例を示す。

図3 「全国学力・学習状況調査結果チャート」のバリエーション例



「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた分析・検証を行うにあたっては、各学校等の特性を考慮に入れることで、より詳細な分析・検証が可能となることに留意する必要がある。さらに、「全国学力・学習状況調査結果チャート」を複数の観点で分析・検証した結果を整理し、一覧表にしてわかりやすくまとめるなどの工夫が考えられる。

3. 学力・学習状況に関する分析・検証の具体例

「全国学力・学習状況調査結果チャート」を用いた学校の学力・学習状況に関する分析・検証を行う際の参考とするため、今回は、①「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」と、②「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」について、学校を分析対象とした場合の「全国学力・学習状況調査結果チャート」の具体例を示す(資料1～3を参照)。

(資料1) 全国学力・学習状況調査結果チャート※[児童生徒]の例

事例1-1

①特徴

教科学力のスコアが、他の質問領域のスコアに比べて高い。

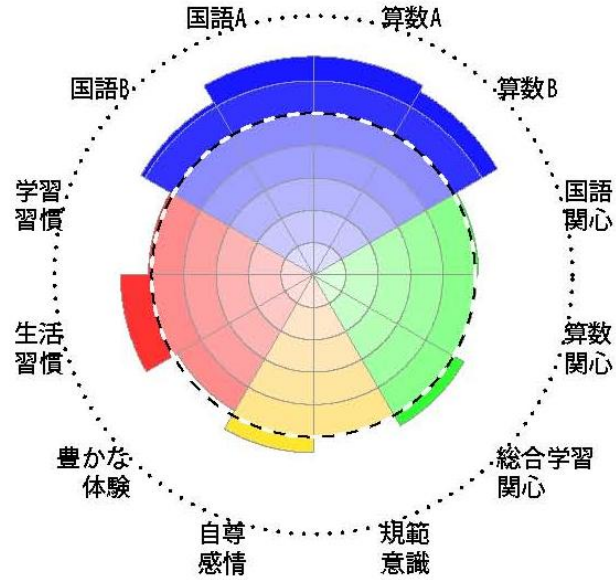
②現状把握

教科学力と比較して、教科への関心等が平均並みに止まっている。

③授業改善のポイント

教科に関する児童生徒の学力を維持しつつ、学習意欲や学習習慣を高める工夫をすることが考えられる。

また、子どもの規範意識等をも高めるための教育実践に力を入れることも望まれる。



事例1-2

①特徴

教科学力のスコアが、他の領域に比較して低い。

②現状把握

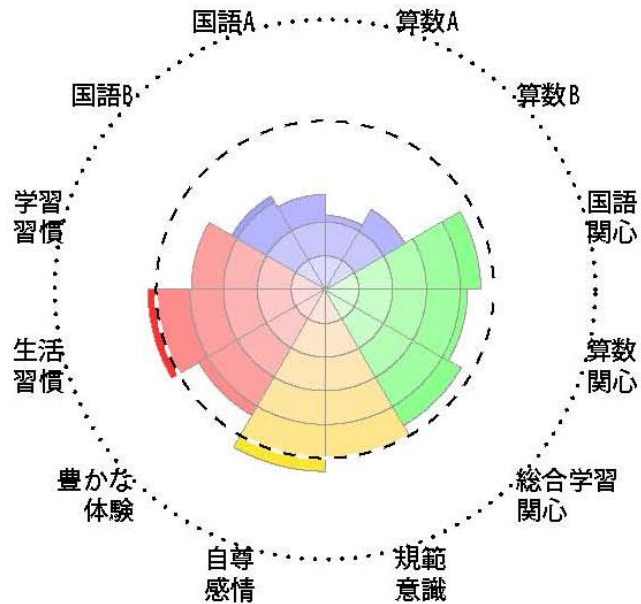
この事例では、特に教科学力について大きな課題が見られる。

さらに、国語・算数への関心・意欲・態度や学習習慣にもやや課題が見られる。

③授業改善のポイント

このような学校では、教科に関する学力の向上に取り組むことが重要と考えられる。

そのためには、基礎的・基本的な知識・技能の定着や、授業での学習意欲を高める指導の工夫や自ら主体的に学ぶ態度の育成などの学力向上に向けた方策を計画し、実践していくとともに、家庭学習の充実を図ることが有効な取組と考えられる。



※以下、文中では「結果チャート」という。

事例1－3

①特徴

数学の関心・意欲・態度のスコアが突出して高い。

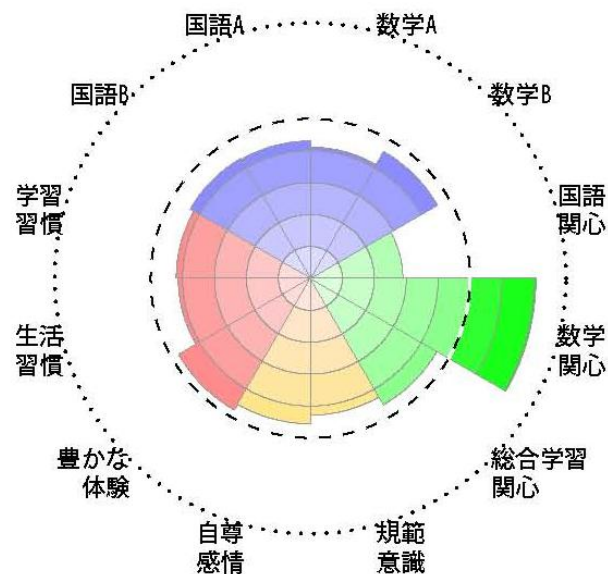
②現状把握

数学の関心・意欲・態度のスコアは高いが、教科学力のスコアやその他の領域のスコアが低くなっている。

③授業改善のポイント

この事例は、授業改善に努力している教科における学習の成果が突出して現われており、教科担任制である中学校などでよく見られる。

このような場合、一教科だけで授業改善を行うのではなく、多くの教科で子どもの学力向上を図ることが方策として考えられる。また、その基盤となる生活・学習習慣の改善や規範意識・自尊感情を高める教育実践にもバランスよく取り組むことも大切である。



事例1－4

①特徴

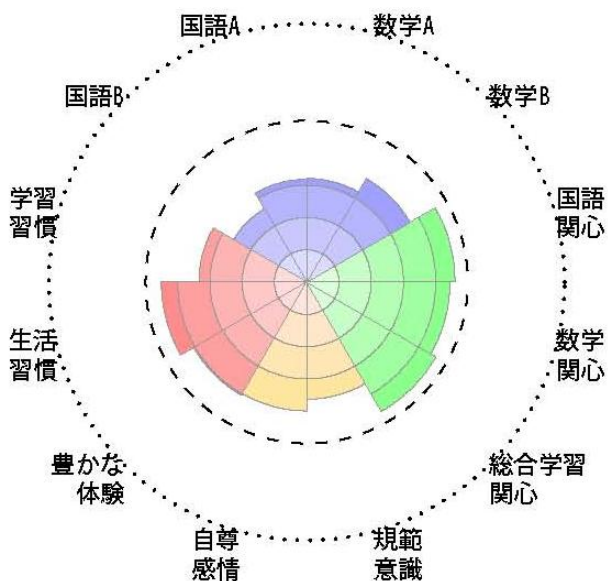
教科学力、学習に対する関心・意欲・態度、体験・習慣、規範意識・自尊感情のすべての領域においてスコアが低い。

②現状把握

この事例では、すべての領域における学力・学習状況に課題がみられる。

③授業改善のポイント

このような事例では、学校の教育に原因があるのか、それ以外の課題によるものなのかを明らかにして授業改善に活かす必要がある。このような課題が大きい学校では、まず生活・学習習慣の根本的な見直しを図ることが有効な場合が多いと考えられる。その際には、全教職員により一貫した取組を進めることが必要である。また、併せて体験活動を行うなど、スコアの低い規範意識・自尊感情を高める活動も重要と考えられる。



(資料2) 全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]の例

事例2-1

①特徴

学校運営のスコアが比較的高い一方で、児童の教科学力のスコアが低い。

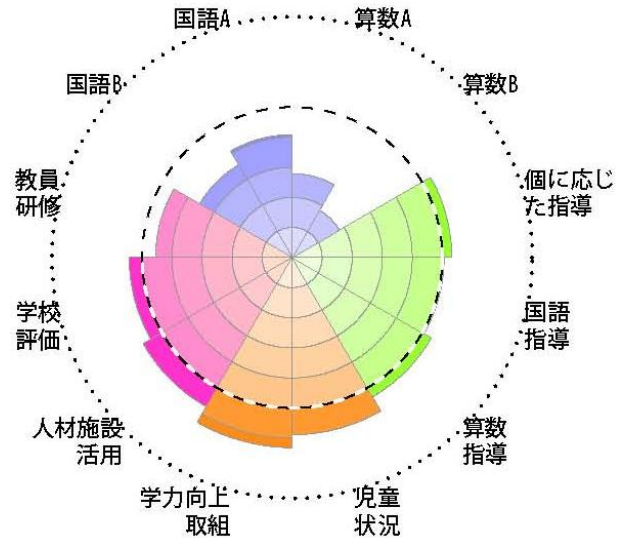
②現状把握

この事例では、学校運営については多くの領域でスコアが高くなっているが、教員研修のスコアは比較的低い。

③授業改善のポイント

このような事例では、学校の授業や学校運営の改善の取組は進んでいるが、児童の学力向上に結びついていないケースが考えられる。

現在行っている取組について、地域や家庭などの特性も考慮しながら取組内容を点検し、計画的な教員研修なども行いながら、より効果的なものに改善していくことが考えられる。



事例2-2

①特徴

児童の教科学力のスコアが比較的高いが、学校運営のスコアは比較的低くなっている。

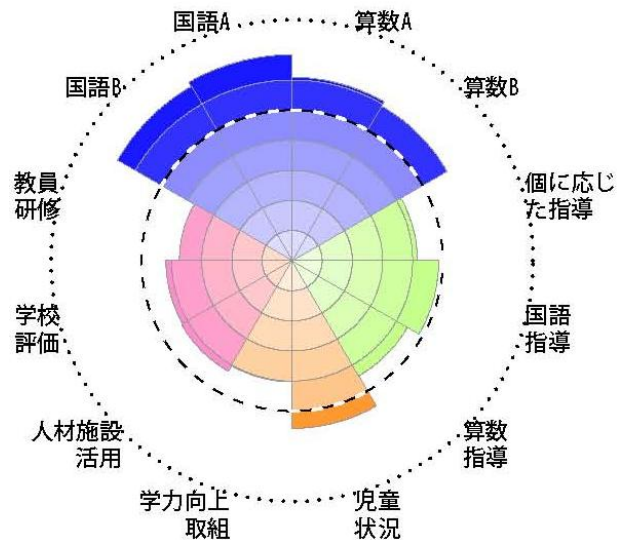
②現状把握

教科学力のスコアは高く、また児童の状況のスコアもやや高いが、教員研修などの学校運営のスコアや学力向上に向けた取組のスコアが低くなっている。

③授業改善のポイント

この結果チャート[学校運営]を見ると、教科指導の取組や、組織的な教員研修等が十分に行われていないことが考えられる。

教科学力のスコアは高く成果が上がっているため、児童の豊かな体験、生活・学習習慣、自尊感情・規範意識などを伸ばすことを目標として、学校運営や学習指導などを見直すことなどにより、さらなる改善が期待できると考えられる。



事例2-3

①特徴

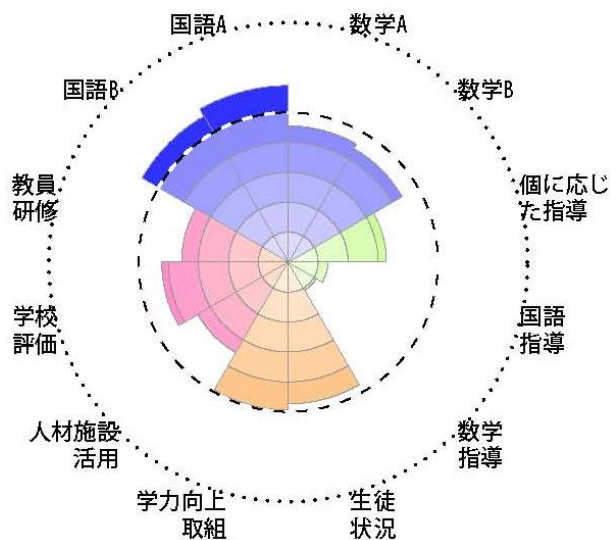
生徒の教科学力のスコアが平均値に近い一方で、教科指導と学校運営のスコアに課題が見られる。

②現状把握

数学のスコアは若干平均を下回るが国語のスコアは比較的高く、生徒の教科学力のスコアには大きな課題が見られない。しかし、教科指導や学校運営のスコアが低く、改善に向けた取組を更に進める余地のある状況が見られる。

③授業改善のポイント

学校の教科指導や学校運営の取組について改善を図ることにより、生徒の教科学力がさらに高まる可能性がある。教科指導の改善のための校内研修を行うことなどにより、授業における指導方法を工夫するなどの改善に積極的に取り組むことが有効であると考えられる。



事例2-4

①特徴

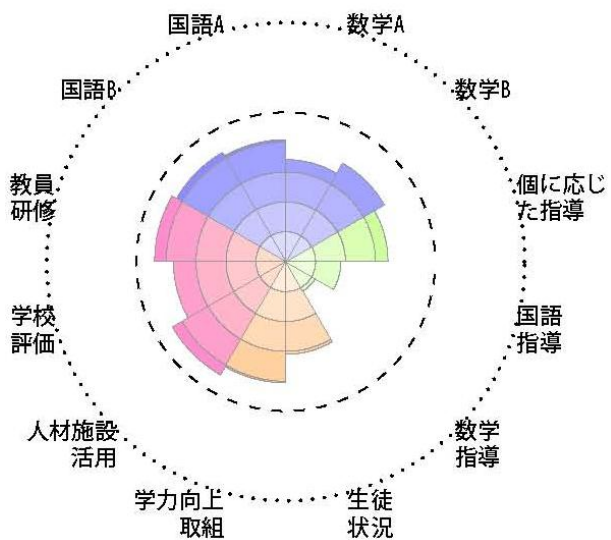
生徒の教科学力、学校運営のスコアについて全体的に大きな課題が見られる。

②現状把握

教科学力のスコアすべてに課題が見られる。また、学校運営のスコアについて全般的に課題が見られ、特に教科に関する指導に関するスコアについて低くなっている。学校が教科指導の改善や学校運営の改善に十分に取組んでいない状況が見られる。生徒の状況のスコアも比較的低い状況が見られる。

③授業改善のポイント

このような学校では、すべての項目の改善を一度に図るのでなく、まず、全教職員が協力して、授業規律を徹底し、生徒の授業への意欲や集中力を高める工夫を行うことが必要と考えられる。また、この取組は、国語と数学だけでなく、全ての教科で行うことが重要である。



(資料3) 全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒] (上段) と全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営] (下段) を併せて見た例

事例3-1

①特徴

教科学力及び児童生徒の学習状況に関し、すべての質問領域のスコアが平均を上回っている。一方で、学校運営に関する質問領域では、教科に関する指導や地域の人材・施設の活用スコアは高いが、教員研修や学校評価、個に応じた指導に関するスコアは平均並かやや低くなっている。

②現状把握

結果チャート[児童]は全体的に高いレベルでバランスがとれている学校である。

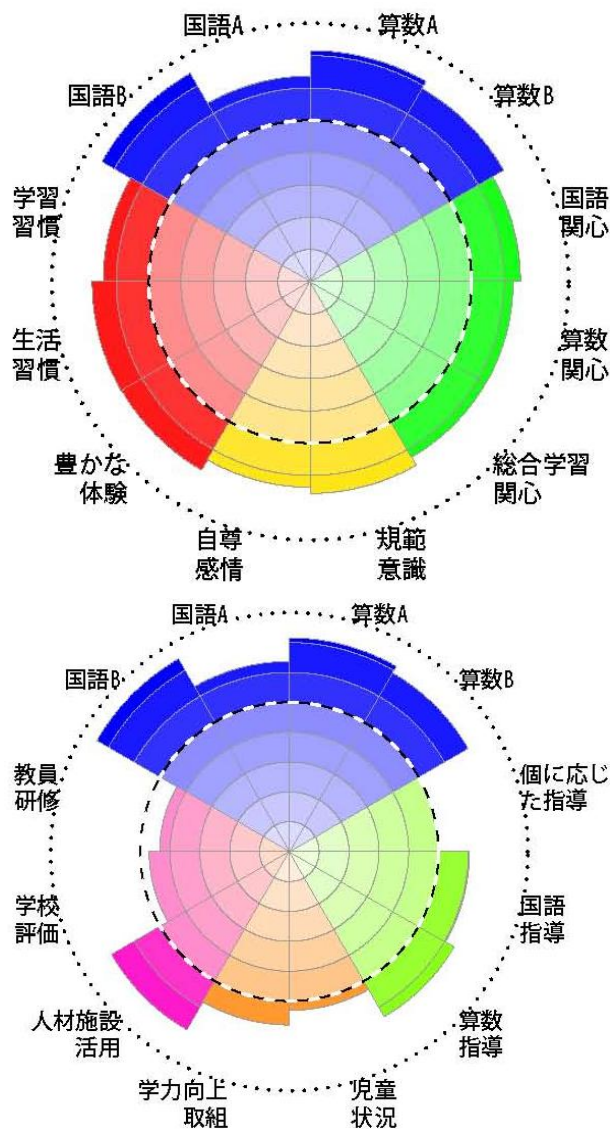
結果チャート[学校運営]を重ね合わせて見てみると、「学力向上に向けた取組」と「個に応じた指導」が平均程度、「学校評価」と「教員研修」に関わる取組が平均未満となっている。

③授業・学校運営改善のポイント

結果チャート[児童]から見る限りにおいては、大きな課題は見られないが、家庭での学習習慣のスコアから他の領域に比べてさらに取組を進める余地が見られる。

一層の学力向上を図るためには、宿題や予習・復習の習慣をより多くの児童に身につけさせるための取組を進めることが考えられる。

また、この学校の結果チャート[学校運営]ではスコアが低い項目があることから、学校の取組だけでなく地域や家庭における教育が児童の学力・学習状況の高さに繋がっていることが考えられる。「教員研修」に更に取り組む余地が見られるので、新しい教育課題をとらえるために教職員を外部研修に出す機会を与えるなど、教員研修を充実させることにより、教育内容の一層の充実を図ることも大切であると考えられる。



事例 3 - 2

①特徴

国語 A, 算数 B と総合的な学習の時間の関心等と自尊感情, 豊かな体験においてスコアが高くなっている。

また, 学校運営では, 学校評価や地域の人材・施設の活用, 児童の状況のスコアが比較的高くなっている。

②状況把握

この学校では, 総合的な学習の時間の成果が突出して高く, 児童の自尊感情も高くなっている。

それ以外にも, 算数の関心が高いことは学校運営において算数の指導の取組のスコアが比較的高いこと, 豊かな体験のスコアが高いことは学校運営において地域の人材活用がなされていることと関係があることが考えられる。

しかし, 児童の生活・学習習慣については, スコアが平均より低く課題が見られる。

③授業・学校運営改善のポイント

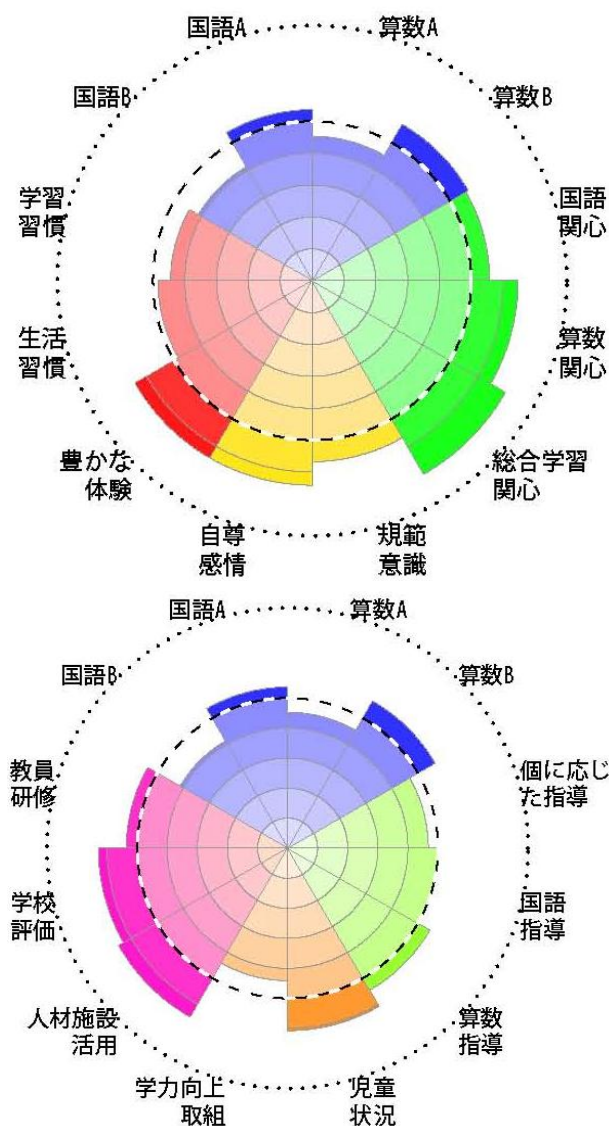
児童の学習への関心は高いので, その長所や自尊感情の高さを失うことなく, 生活・学習習慣を定着させることにより, 更なる教科学力の向上を目指すことが大切である。

この学校では, 国語・算数において A 問題と B 問題の得点に差が見られる。

例えば, 国語 B で出題されている言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用する力を伸ばすため, 算数の指導で活用の力を伸ばした経験やノウハウも参考にしつつ, 国語の指導において一層の指導の工夫を図ることが考えられる。

また, 算数においては, 算数 A のスコアが低いことから, スコアが低い学力向上の取組や学習習慣の定着を図っていく中で, 基礎・基本となる知識・技能を身につけさせることが重要と考えられる。

これらの取組を進めるにあたっては, 基礎・基本となる知識・技能の定着と活用の力をバランス良く育成することが, 児童の学力を一層向上させる上で大切であると考えられる。



事例3-3

①特徴

教科学力で成果をあげているのに比較して、児童の学習状況に関する質問領域には課題が見られる。

学校運営に関する質問領域では、算数の指導に対する取組や学校評価、地域の人材・施設の活用に関するスコアが高くなっているが、教員研修や学力向上の取組、児童の状況に関するスコアが低く、課題が見られる。

②現状把握

教科学力のスコアにおいては、国語と算数の両教科について、A問題でもB問題でも、バランスよく高い水準にあることから、基礎的な知識・技能の学びと活用に関する学びのバランスがとれているといえる。

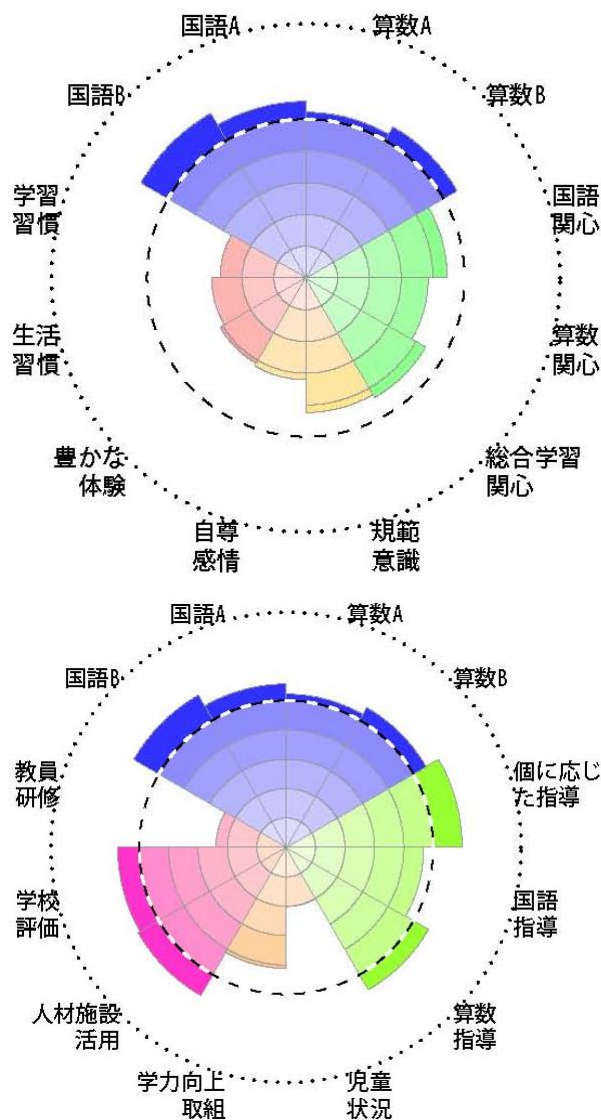
また、高いスコアを示している教科指導に関する学校の取組だけでなく、学校評価と地域の人材・施設の活用のスコアも高いことから、地域や家庭の協力もあり、児童の教科学力が高まっていることが考えられる。

③授業・学校運営改善のポイント

課題が見られた児童の関心や自尊心・規範意識、学習習慣・生活習慣等の改善に取り組むことが必要であると考えられる。

特に児童の学習習慣と生活習慣のスコアが低いいため、まずこの改善に取り組むことが大切である。その上で、学習意欲を喚起するため、授業における教材や活動を工夫することなどが有効な手段として考えられる。

また、スコアの低い教員研修について、校内外の研修などの取組を一層充実することにより、教員の教科指導や生活指導などの力を伸ばし、児童の学力や学習意欲の一層の向上や学習習慣の確立につながることを期待される。



事例3-4

①特徴

教科学力のスコアが低いのに対して、豊かな体験、学習習慣、生活習慣、規範意識、自尊感情、教員研修などにおいてはスコアが高くなっている。

②現状把握

この結果チャート[児童生徒]からは、教科学力とそれ以外の質問領域のスコアの間に、大きな乖離がみられる。また、結果チャート[学校運営]では、教員研修と児童の状況のスコアは比較的高いが、それ以外の質問領域のスコアが低く、課題が見られる。ただし、学習習慣や生活習慣には成果も見られるので、学校運営の状況が改善していけば、学力が向上することが考えられる。

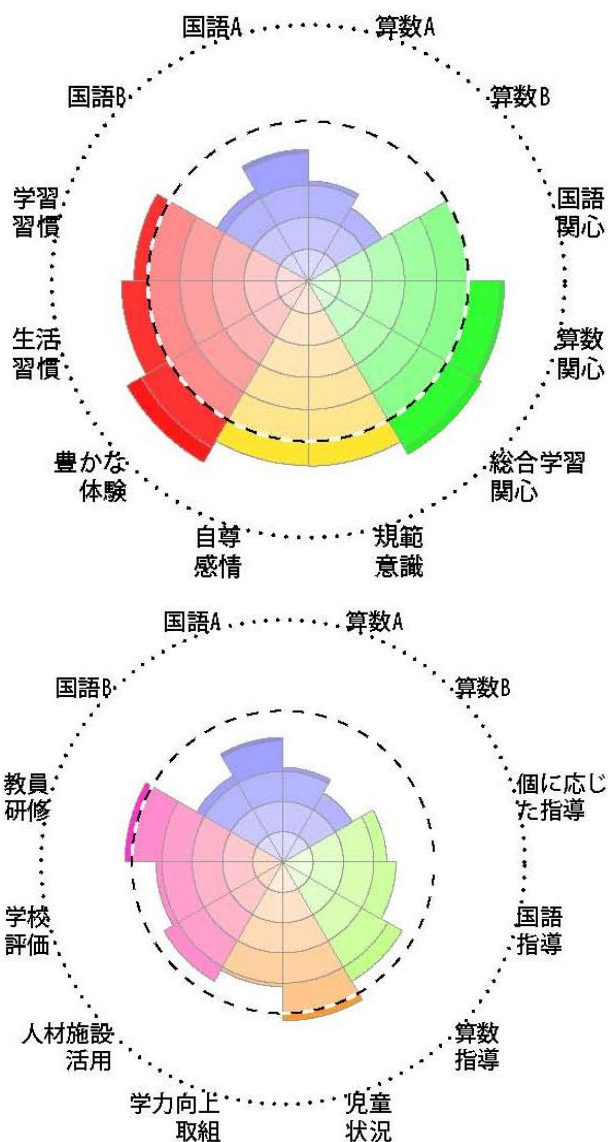
③授業・学校運営改善のポイント

結果チャート[児童]を見ると、すでに児童の豊かな体験、学習習慣、生活習慣、規範意識・自尊感情が形成されているので、児童の学力向上に向けた授業改善などの取組により、児童の学力向上が実現しやすい状況にあると考えられる。

このような学校では、まず、低いスコアとなっている児童の教科学力を向上させるための授業改善に取り組むことが大切である。

そのため、スコアの低い教科指導における工夫を図ったり、学力向上に向けた取組を進めたりすることが重要である。

また、この学校では、教員研修は充実している傾向が見られるため、今後、校外の研修を活用して最新の知見を取り込むとともに、校内研修において、その研究テーマを明確にし、内容を工夫することで、教員の授業を行う技能を向上することが、授業改善を図る上で有効な手段と考えられる。



事例3-5

①特徴

国語と算数のA問題において一定の成果が見られるが、児童の学習状況についてのスコアは低く、課題のある質問領域が多く見られる。

学校運営では、教科指導に関する質問領域や地域の人材・施設の活用スコアが平均を下回っている。

②現状把握

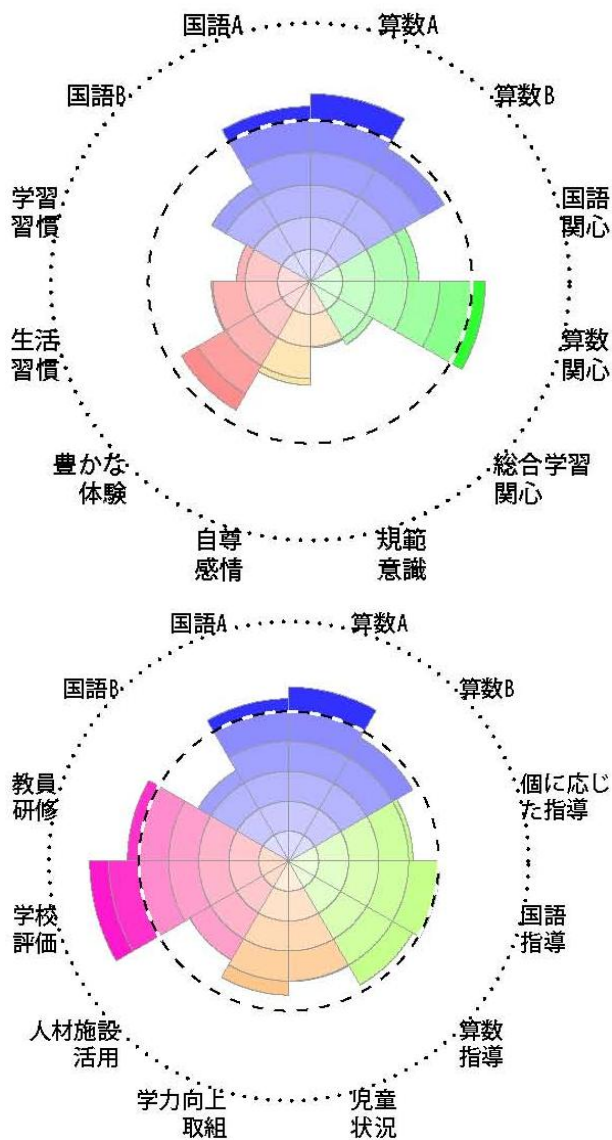
基礎的な学力と算数における関心等については一定の成果をあげているが、特に児童の状況に課題が多いと考えられる。また、教科学力についてはこれまでの学校の取組により、基礎・基本となる知識・技能は定着しているが、活用に関する力には課題が見られる。

また、学校評価のスコアは高く取組が進んでいると考えられるが、個に応じた指導や地域の人材・施設の活用、学力向上の取組のスコアが低く、課題が見られる。

③授業・学校運営改善のポイント

この学校は、教科の基礎的な学力において一定の成果を上げているが、児童の知識・技能を活用する力を伸ばす必要がある。また、教師の取組としては、教科指導に関する領域は平均程度であるが、個に応じた指導については低くなっている。このため、活用する力を伸ばすための指導方法を工夫して授業に取り入れるなどの授業改善を行うことや、地域の人材・施設を活用した取組を充実させることが考えられる。その際には、児童の基本的な知識・技能を定着させるための取組と活用する力を伸ばすための取組にバランス良く取り組むことが、児童の学力向上を図る上で大切であると考えられる。

さらに、児童の生活・学習習慣や、規範意識、自尊感情に大きな課題が見られることから、生活・学習習慣の改善や児童の状況の改善を図ることが重要であり、そのために、家庭との連携のもと、学校全体として改善に向けて取り組むことが必要であると考えられる。



事例3-6

①特徴

教科学力は概ね平均的な状況であるが、算数Bのスコアは高くなっている。また、児童の学習に対する関心・意欲・態度や自尊意識、生活習慣などのスコアは非常に高くなっている。学校運営では、算数の指導のスコアが高くなっており、その他の質問領域のスコアは概ね平均的である。

②現状把握

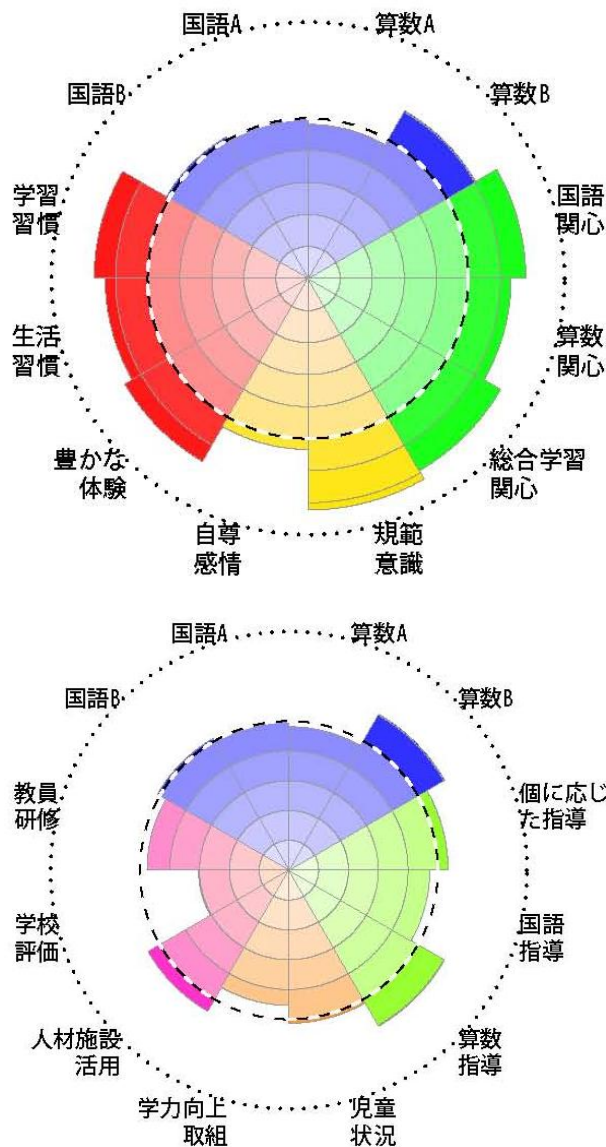
教科学力が平均的にバランスがとれている状況の中で、児童の学習状況にも良好な傾向が見られる。一方で、学校運営は概ね平均的な状況にあることがうかがえ、学校の取組の改善により、学力向上につながる可能性があると考えられる。

③授業・学校運営改善のポイント

この学校の結果チャート[学校運営]を重ね合わせて見ると、算数の指導においては指導方法を工夫している状況が見られ、算数Bのスコアが高いという成果につながっていると見られる。しかし、その他の学校運営にかかる質問領域のスコアは、全体的に平均的な状況にあり、教員研修や学校評価については十分な取組が行われていないと考えられるので、今後、学校運営の取組について一層の改善を図ることにより、児童の学力の更なる向上が期待される。

また、このような学校は、結果チャート[児童]から見ると、児童の関心・意欲・態度、規範意識、生活・学習習慣などは充実しているため、学校の取組の成果が出やすいことが考えられる。

そのため、全教職員が学力向上という共通の目標を持ち、成果が見られた算数の指導における経験・ノウハウを校内研修で共有することなどにより、授業改善に取り組むことが有効な手段として考えられる。



事例 3-7

①特徴

生徒の学習状況と教科学力は全体として平均的な傾向にあるが、学習習慣と豊かな体験のスコアは高くなっている。

また、学校運営に関する質問領域のスコアについては、全体的に高い傾向が見られる。

②現状把握

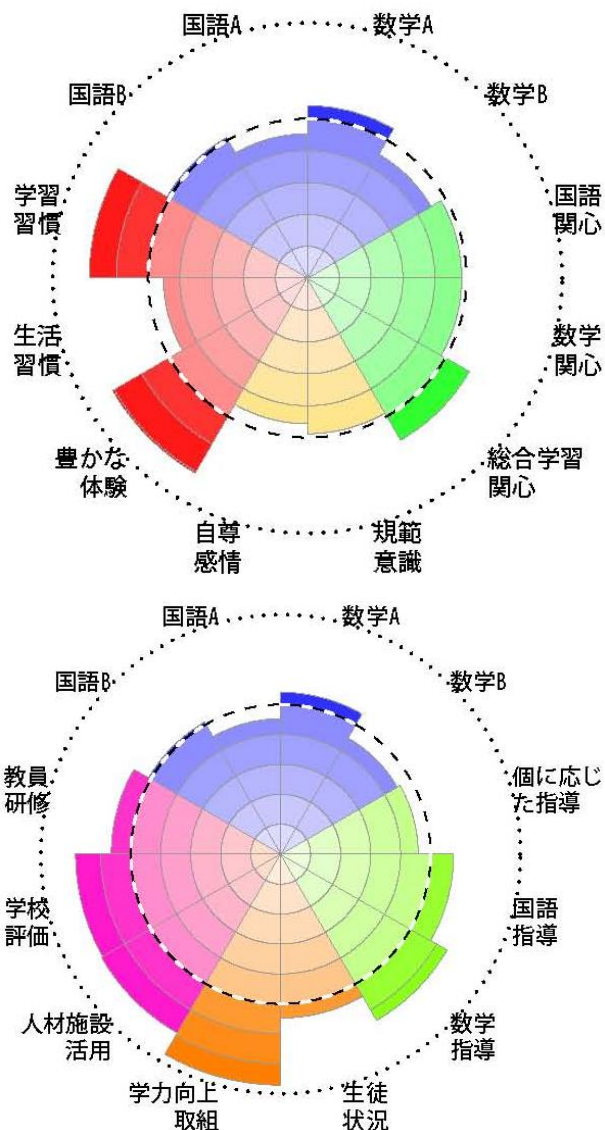
教科学力は、国語・数学ともに平均的なスコアを示しており、学習習慣も身につけているが、生活習慣などに課題が見られる。

③授業・学校運営改善のポイント

学校運営については、比較的充実している質問領域が見られ、特に学力向上の取組に力を入れている。その取組が学習習慣や豊かな体験のスコアの高さに繋がっているものと考えられる。他に比べて低いスコアとなっている生活習慣の改善にしっかりと取り組むことによって、学力の向上につながる可能性があると考えられる。

一般的に、中学生になると生活習慣を改善することが難しくなる傾向があるため、学校において、家庭や地域とも連携しつつ、生徒の生活習慣の改善に取り組むことが重要である。

また、学校の取組についても、その内容を見直すことにより、生徒の学力向上につながる可能性がある。そのため、各教科の一層の授業改善によって学習意欲の向上を図ることや、指導にあたって多様な学び方を習得させるよう努めることなどが有効な手段として考えられる。また、数学においては、問題 A は比較的高いスコアとなっているが、問題 B のスコアが低いことから、活用する力を伸ばすための指導の工夫を行うことが重要であると考えられる。



事例3-8

①特徴

数学への関心等，規範意識，豊かな体験のスコアについて平均的な状況にあるが，全体としてスコアの低い質問領域が多い。学校運営についても，生徒の状況のスコアは平均的だが，その他の質問領域のスコアは比較的低い傾向にある

②現状把握

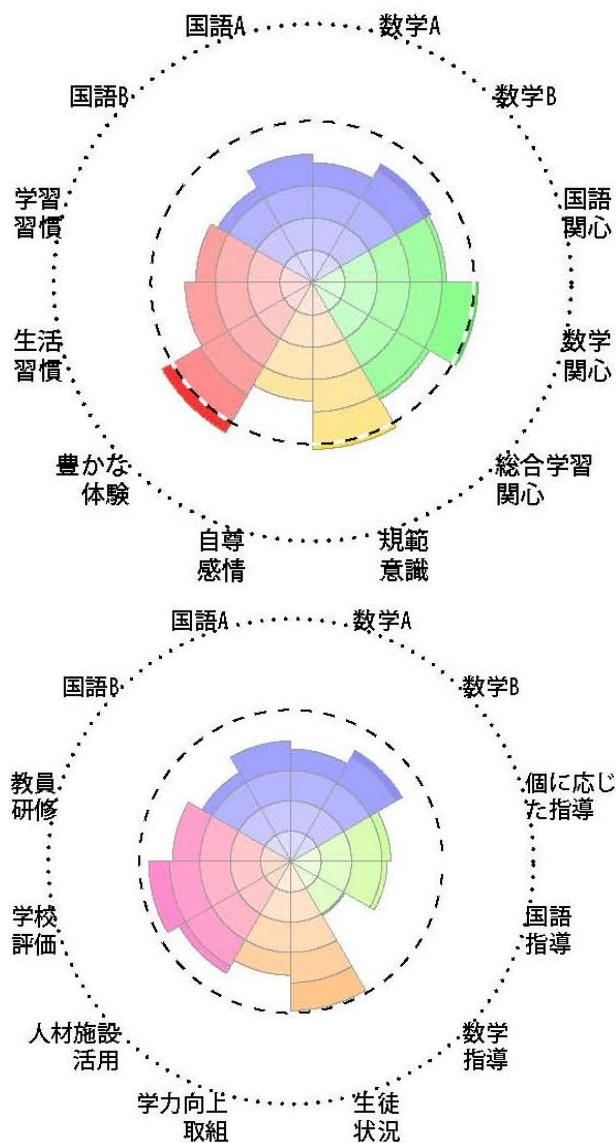
全体として，スコアの低い質問領域が多く，学校の運営と生徒の学力・学習状況の両方に課題が見られる一方で，規範意識，生徒の状況などの質問領域については，平均的なスコアであり，生徒の規範意識等の高さを維持・向上しつつ，比較的低い学習習慣と生活習慣の確立や自尊意識の向上を図ることが必要と考えられる。

③授業・学校運営改善のポイント

学習習慣と生活習慣の確立が，学力向上において大変重要であり，まず，保護者や地域との連携の下，全教職員で生徒の学習習慣と生活習慣の改善に取り組むことが重要と考えられる。

その際には，教科担当のみならず学級担任を含むすべての教職員が，現状の認識を共有し，協力して改善に向けた方策を考え，実行していくことが重要であると考えられる。

その上で，スコアの低い教員研修などを充実するとともに，指導方法の工夫・改善に取り組むことなどにより，学校全体として教科の指導の改善に取り組んでいくことが，学力や学習意欲を向上させるために有効な手段と考えられる。



事例 3-9

① 特徴

国語A・B，算数Aの教科学力のスコアと国語の指導，学力向上の取組や学校評価のスコアが比較的高いが，児童の学習に対する関心等や学習習慣・生活習慣，児童の状況や算数の指導等のスコアが比較的低くなっている。

② 現状把握

国語については，教科指導の取組が進んでおり，教科学力のスコアについても高い傾向が見られる。

一方で，算数については指導の取組状況のスコアが低く，また，算数Bのスコアも低くなっており，児童の学力と学校の教科指導の取組とも教科の偏りが見られる。

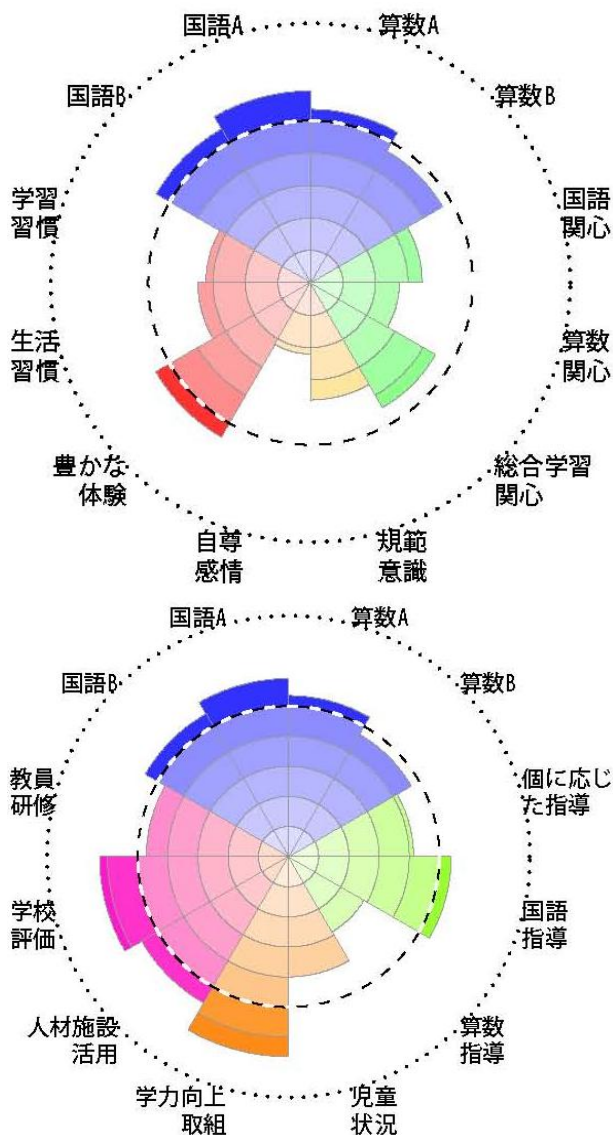
また，児童の教科に関する関心，生活・学習習慣，自尊感情・規範意識や児童の状況に課題が見られる。

③ 授業・学校運営改善のポイント

国語のB問題においても，かなりの成果をあげていることから，この学校では必ずしも基礎学力に限定した授業を行っているわけではないことが分かる。したがって，算数の授業においても，基礎学力の定着を図るとともに，知識・技能を活用する力を育てる工夫を取り入れることによって，学力がバランスよく高まる可能性がある。

また，教科指導だけでなく，総合的な学習の時間の充実や，地域や家庭と協力した生活・学習習慣の見直し，さらには，規範意識や自尊感情の育成などに取り組むことが重要と考えられる。

教員相互の協力が少ない場合などに，今回の結果チャートに見られるように，学級担任の得意な分野や一定の教科の指導に重点が偏ることが考えられる。教員研修の取組に改善の余地があると考えられることから，今後，国語の指導における経験・ノウハウも生かしつつ，校内研究授業などを通して学校内の様々な教員と広く意見交換できる校内教員研修の場づくりや校外研修を活用するなど，教員研修の充実を図ることが有効と考えられる。



事例3-10

①特徴

生徒の学力・学習状況のスコアは低い、個に応じた指導や教員研修、学校評価、人材・施設活用のスコアが高くなっている。

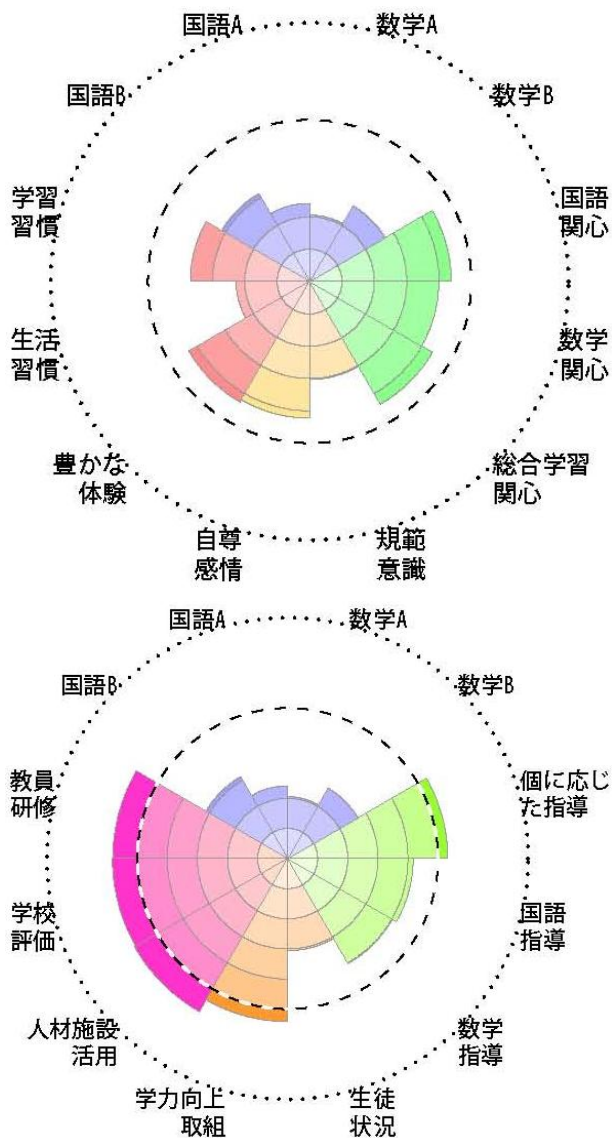
②現状把握

2つの結果チャートから、学校として学力向上のために様々な取組を進めているが、教科学力のスコアは比較的低い状況が見られる。

また、生徒の学習状況、特に生徒の規範意識や生活習慣に課題がある。さらに、教科指導のスコアは低く、教科指導の工夫は進んでいない状況が見られる。

③授業・学校運営改善のポイント

結果チャート[学校運営]における生徒の状況と、結果チャート[生徒]の規範意識、生活習慣のスコアが特に低いことから、まず、授業中の生徒の落ち着きや集中力を回復させるために、指導方法を工夫して授業改善を行うとともに、生徒の生活・学習習慣の見直しを図ることが重要と考えられる。私語が少ないなど、生徒が学びに集中できるようになり、生活習慣・学習習慣の改善が進んだところで、生徒の学習意欲を高める教材や活動の工夫をするなど教科の授業改善に取り組むことが有効と考えられる。



事例3-11

①特徴

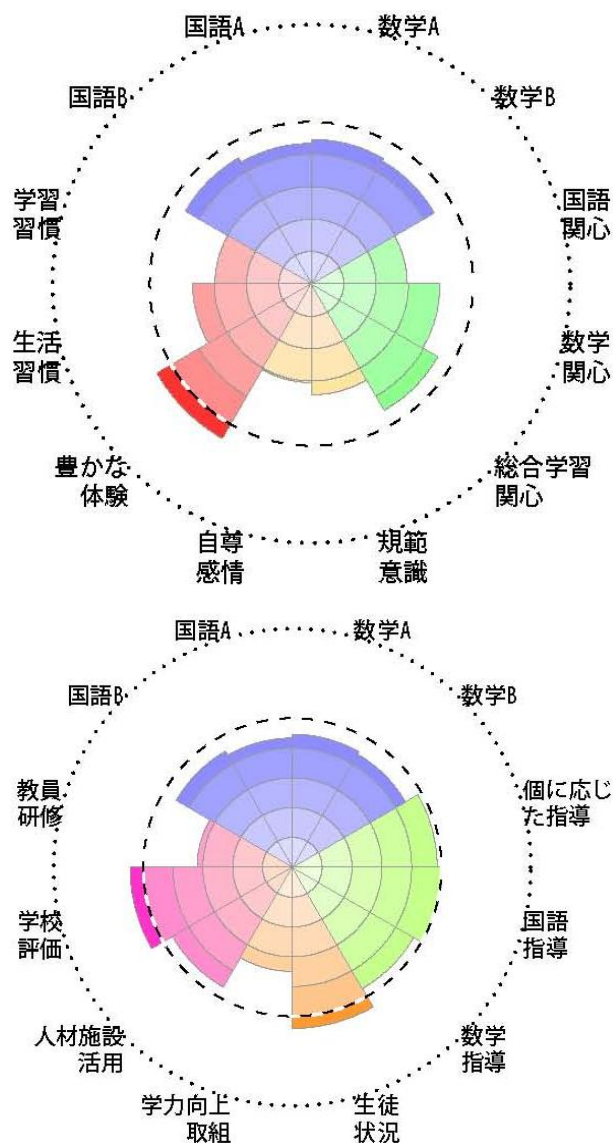
豊かな体験のスコアは比較的高くなっているが、教科学力やその他の生徒の学習状況のスコアは低い傾向が見られ、特に自尊感情や規範意識、学習習慣のスコアが低くなっている。また、学校運営については、生徒の状況と学校評価のスコアは比較的高くなっているが、教員研修と学力向上の取組のスコアが低くなっている。

②現状把握

この結果チャート [生徒] からは、生徒の学力・学習状況の改善、特に学習習慣・生活習慣、自尊感情や規範意識において課題が見られる。結果チャート [学校運営] からは、教科指導に関するスコアが平均的だが、教員研修や学力向上の取組のスコアが低いことから、教科指導の工夫は一定程度進んでいるが、教員研修は進んでいない状況がうかがえる。また、学校における生徒の状況のスコアが比較的高く、授業での生徒の状況についての課題は少ない状況もうかがえる。なお、学校評価のスコアについては高くなっている。

③授業・学校運営改善のポイント

この学校では、学校評価は進んでいるが、教員研修や学力向上の取組など教職員による組織的な取組に課題が見られる。まず、校内での教員研修の機会を増やすなどして、学級と教科の担任だけでなく、すべての教員が目標を共有し、共通の認識の下、生徒の学力・学習状況を改善するための方策を検討・実施する体制を作ることが有効であると考えられる。併せて、特に課題が見られる生徒の生活・学習習慣の見直しや、自尊感情・規範意識の改善に取り組むことが重要と考えられる。その上で、教員研修を通じてノウハウや経験を共有化し、教科の授業について一層の工夫・改善を図ることにより、教科への関心等を高めつつ、学力の一層の向上に取り組むことが重要と考えられる。



(別添) 「全国学力・学習状況調査結果チャート」の作成方法

「全国学力・学習状況調査結果チャート」の作成の流れは、以下のとおりである。

- 1 表1及び表2に例示したように、教科学力の領域には、学力調査の各教科スコアを位置づけ、その他の領域は、児童生徒質問紙調査（又は学校質問紙調査）の中から該当する質問項目を選択し、設定する。
- 2 これにより選出した質問紙調査の領域毎の対応項目の平均値を「全国学力・学習状況調査結果チャート」の各領域のスコアとして算出する。
- 3 全国、都道府県、市町村等を母集団として標準化する。
- 4 算出した領域ごとのスコアから、域内の学校の「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する。

これを踏まえ、1～3における計算手順について以下に述べることとする。

なお、以下、用語の定義について示す

- 基礎値：個別の質問項目又は教科の結果から算出される値。「全国学力・学習状況調査結果チャート」作成の基礎となる数値
- 複合パラメータ：複数の質問項目の基礎値を平均したもの
- スコア：「全国学力・学習状況調査結果チャート」における分析対象の各領域における値（基礎値や複合パラメータなどから算出）

1) 分析対象と比較基準の決定

まず、「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する単位である「分析対象」と、チャートにおいて「比較基準となる母集団」を決める。これに基づいて、「全国学力・学習状況調査結果チャート」の各領域のスコア（数値）を算出することとなる。

分析対象と比較基準となる母集団の組み合わせとしては、学校を分析対象とした場合、

- ・ 全国を比較基準とする場合
- ・ 各都道府県を比較基準とする場合
- ・ 各市町村を比較基準とする場合

が考えられる。

2) 分析対象の各領域のスコアの数と、それぞれの領域を構成する質問項目の決定

分析に用いる各領域のスコアの数と、個々の領域を構成する質問項目や教科学力のスコアを決定する。例えば、教科に関する調査の結果に関する各領域のスコアであれば、国語A及びB、算数／数学A及びBごとの平均正答率や、教科区分ごとの記述式問題の平均正答率などが考えられる。

また、質問紙調査の結果に関する結果であれば、例えば、児童生徒質問紙における「国語

が好き」や「国語が大切と思う」などの質問項目で構成することが考えられる。

本書では、表1、表2に示す12の領域のスコアで「全国学力・学習状況調査結果チャート」の具体例を作成し掲載している。

3) 質問項目に関する各領域のスコアの算出手順

手順1 各分析対象における基礎値の算出方法

(1-1) 個別の質問項目ごとの値を算出する。

① 教科に関する調査の結果を用いた基礎値の特定

教科区分別(国語A, 国語B, 算数/数学A, 算数/数学B)の結果については、個別の分析対象ごとの平均正答率が基礎値となる。また、記述式問題や学習指導要領の領域ごとなど範囲を限定した調査問題の正答率を領域のスコアとする場合は、個別の分析対象ごとの記述式問題等の平均正答率が、当該領域における基礎値となる。

② 児童生徒質問紙の質問項目に係る基礎値の算出

$$X_i \doteq 4 \times A_1 + 3 \times A_2 + 2 \times A_3 + 1 \times A_4$$

$A_i =$ 当該主体の質問紙調査の回答結果(割合(%))

(A_1 及び A_2 が肯定的な回答, A_3 及び A_4 が否定的な回答)

基礎値を、分析対象の質問紙調査の結果の割合(A_1, A_2, A_3, A_4)から近似的に計算する。

例えば、児童生徒質問紙調査の「国語の勉強はよく分かりますか」という質問で、学校の調査結果が、「当てはまる」27.0%、「どちらかといえば当てはまる」35.0%、「どちらかといえば当てはまらない」30.0%、「当てはまらない」8.0%の場合、その学校の当該質問項目の基礎値は、

$$4 \times 0.27 + 3 \times 0.35 + 2 \times 0.3 + 1 \times 0.08 = 2.81$$

となる。

③ 学校質問紙の質問項目に係る基礎値の算出

学校質問紙調査の質問項目においては、選択肢が4択のものと2択のものがあるため、すべて2択に置き直して、基礎値を算出する。

a) 学校質問紙の質問項目に係る基礎値

・2択の質問項目の場合

$$X_i = 2 \quad (\text{肯定的な回答(はい)の場合})$$

$$X_i = 1 \quad (\text{否定的な回答(いいえ)の場合})$$

学校質問紙調査の質問項目が2択で肯定的な回答をしている場合は基礎値が「2」、否定的な回答をした場合は基礎値が「1」になる。

例えば、「学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか」という質問で「はい」と答えている学校の当該質問項目の基礎値は「2」となる。

・4択の質問項目の場合

$$X_i = 2 \quad (\text{肯定的な回答のいずれかの場合})$$

$$X_i = 1 \quad (\text{否定的な回答のいずれかの場合})$$

学校質問紙調査の質問項目が4択で肯定的な回答のいずれかを選択している場合は基礎値が「2」、否定的な回答のいずれかを選択した場合は基礎値が「1」になる。

例えば、「第6学年の児童に対する国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」という質問で「よく行った」又は「どちらかといえば行った」と答えている学校の当該質問項目の基礎値は「2」となる。一方で、「あまり行っていない」又は「全く行っていない」と回答している学校の当該質問項目の基礎値は「1」となる。

b)教育委員会等における質問項目に係る基礎値

・2択の質問項目の場合

$$X_i \doteq 2 \times A_1 + 1 \times A_2$$

$$A_i = \text{当該主体の質問紙調査の回答結果（割合（％））}$$

(A_1 が肯定的な回答, A_2 が否定的な回答)

基礎値を、分析対象の質問紙調査の結果の割合 (A_1 , A_2) から近似的に計算する。

例えば、学校質問紙調査の「学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか」という質問で、ある市において「はい」と答えている学校の割合が70.0%、「いいえ」と答えている学校の割合が30.0%の場合、その市の当該質問項目の基礎値は、

$$2 \times 0.70 + 1 \times 0.30 = 1.7$$

となる。

・4択の質問項目の場合

$$X_i \doteq 2 \times (A_1 + A_2) + 1 \times (A_3 + A_4)$$

$$A_i = \text{当該主体の質問紙調査の回答結果（割合（％））}$$

(A_1 及び A_2 が肯定的な回答, A_3 及び A_4 が否定的な回答)

基礎値を、分析対象の質問紙調査の結果の割合(A₁, A₂, A₃, A₄)から近似的に計算する。
例えば、「第 6 学年の児童に対する国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」という質問で、ある市における学校の回答結果が、「よく行った」27.0%、「どちらかといえば行った」35.0%、「あまり行っていない」30.0%、「全く行っていない」8.0%となっている場合、その市の当該質問項目の基礎値は、

$$2 \times (0.27 + 0.35) + 1 \times (0.30 + 0.08) = 1.62$$

となる。

(1-2) まとめる質問項目の値から、複合パラメータを算出する。

比較基準（全国、都道府県、市町村等）の複合パラメータと、分析対象の学校等についての複合パラメータを算出する。

$$Y_i = \frac{1}{m} \sum_{i=1}^m X_i = \frac{1}{m} (X_1 + X_2 + \dots + X_i)$$

m = 複合させる基礎値の数

(1-1) で計算した質問項目の基礎値を、領域ごとに足して平均を出すことで、複数の質問項目の複合パラメータの値を算出できる。

なお、文部科学省の公表資料から全国及び各都道府県の複合パラメータの算出を行うことができる。

手順2 標準偏差を算出する。

各学校等は、教科に関する調査の標準偏差については、文部科学省から提供されている資料から知ることができるが、質問項目を複合したパラメータに関する標準偏差を知るためには、比較基準となる主体に算出してもらう必要がある。具体的には、全国のものであれば文部科学省、都道府県全体であれば当該都道府県教育委員会、市町村全体であれば当該市町村教育委員会で算出することになる。

質問項目に関する複合パラメータの標準偏差を算出するための具体的な手順を、以下の(2-1)、(2-2)に示す。

(2-1) 比較基準となる地域のすべての分析対象の複合パラメータの算出

(1-1) 及び(1-2)の要領で、比較基準となる地域の域内すべての分析対象の複合パラメータを算出する。

(2-2) (2-1) で計算した複合パラメータから標準偏差を算出する。

$$\sigma = \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}$$

n = 比較基準（全国，都道府県，市町村等）の域内の分析対象（学校等）の数

Y_i = 分析対象の複合パラメータの値

\bar{Y} = 比較基準の複合パラメータの値

参考に，全国を比較基準として，表1及び表2で示した「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する際に必要となる平均値と標準偏差を表3及び表4に示す。

表3 「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧（平成19年度全国学力・学習状況調査）

領域番号	領域名		小学校調査		中学校調査		
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
I	1	教科学力	国語A	14.67	1.02	30.17	2.02
	2		算数／数学A	15.58	1.35	25.74	3.29
	3		国語B	6.17	0.95	7.17	0.82
	4		算数／数学B	8.75	1.10	10.21	1.52
II	5	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等	2.91	0.19	2.93	0.18
	6		算数／数学への関心等	3.20	0.20	2.90	0.18
	7		総合的な学習への関心等	2.95	0.26	2.49	0.26
III	8	規範意識・自尊感情	規範意識	3.44	0.16	3.36	0.14
	9		自尊感情	3.23	0.19	3.02	0.16
IV	10	学習の基盤となる体験・習慣	豊かな体験	3.08	0.20	2.93	0.19
	11		生活習慣	3.17	0.16	3.02	0.14
	12		学習習慣	2.71	0.24	2.54	0.23

表4 「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧（平成19年度全国学力・学習状況調査）

領域番号	領域名		小学校調査		中学校調査		
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
I	1	教科学力	国語A	14.67	1.02	30.17	2.02
	2		算数／数学A	15.58	1.35	25.74	3.29
	3		国語B	6.17	0.95	7.17	0.82
	4		算数／数学B	8.75	1.10	10.21	1.52
II	5	教科指導	個に応じた指導	1.46	0.27	1.42	0.28
	6		国語科の指導法	1.77	0.20	1.77	0.21
	7		算数／数学科の指導法	1.80	0.20	1.76	0.22
III	8	学力向上	児童生徒の状況	1.90	0.25	1.87	0.29
	9		学力向上に向けた取組	1.45	0.17	1.46	0.17
IV	10	学校運営	地域の人材・施設の活用	1.56	0.23	1.58	0.19
	11		開かれた学校・学校評価	1.68	0.16	1.67	0.16
	12		教員研修	1.85	0.17	1.75	0.21

手順3 データの標準化を行う。

手順1で求めた学校の複合パラメータの値と比較基準の複合パラメータの値、手順2で求めた標準偏差から、「全国学力・学習状況調査結果チャート」に用いる各領域のスコア Z を以下のとおり、算出する。

$$Z = \frac{Y_i - \bar{Y}}{\sigma}$$

σ =標準偏差

4) 教科に関する各領域のスコアの算出

教科に関する調査結果の各領域のスコアについては、国語A, B, 算数／数学A, Bのそれぞれの平均正答率と、比較基準となる平均正答率そのまま各領域のスコアになる。

例えば、ある学校の算数Aの平均正答率が75.0%で、基準とする都道府県内の学校の算数Aの平均正答率が70.0%、標準偏差が4.2の場合、

$$(0.75-0.70)÷4.2=1.2$$

となり、都道府県を基準とした場合の当該学校の算数Aのスコア値は「1.2」と算出できる。

5) 算出した各領域のスコアを組み合わせ、「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する

2) で算出した質問項目に関する領域のスコアと、3) で算出した教科に関する領域のスコアを用いて、「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する。具体的には、「全国学力・学習状況調査結果チャート」の中心から、平均値との距離を一定とした円を引き、算出したそれぞれの項目の各領域のスコアを挿入して、「全国学力・学習状況調査結果チャート」が完成する。

(参考)

平成 20 年度調査に関する全国学力・学習状況調査結果チャートについて

平成 20 年度全国学力・学習状況調査に関する「全国学力・学習状況調査結果チャート [児童生徒]」及び「全国学力・学習状況調査結果チャート [学校運営]」については、以下の表 1 及び表 2 に示す項目の調査結果を基に作成しています。

また、参考に、全国を比較基準として、表 1 及び表 2 で示す「全国学力・学習状況調査結果チャート」を作成する際に必要となる平均値と標準偏差を表 3 及び表 4 に示します。

表 1 平成 20 年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート [児童生徒]」の領域名と対応項目一覧

領域番号	領域名		小学校児童質問紙 対応領域・項目番号	中学校生徒質問紙 対応領域・項目番号	
I	1	教科学力	国語 A	/	/
	2		算数・数学 A		
	3		国語 B		
	4		算数・数学 B		
II	5	学習に対する 関心・意欲・態度	国語への関心等	(50)～(59)	(50)～(59)
	6		算数・数学への 関心等	(61)～(70)	(61)～(70)
	7		総合的な学習への 関心等	(45)～(47)	(45)～(47)
III	8	規範意識・ 自尊感情	規範意識	(34)～(40)	(34)～(40)
	9	自尊感情	自尊感情	(5)～(8)	(5)～(8)
IV	10	学習の基	豊かな体験	(41)～(44)	(41)～(44)
	11	盤となる	生活習慣	(1)～(4)	(1)～(4)
	12	体験・習慣	学習習慣	(25)～(28)	(25)～(28)

表2 平成20年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート [学校運営]」の領域名と対応項目一覧

領域番号		領域名		小学校学校質問紙 対応領域番号	中学校学校質問紙 対応領域番号
I	1	教科学力	国語 A		
	2		算数・数学 A		
	3		国語 B		
	4		算数・数学 B		
II	5	教科指導	個に応じた指導	(44)(45)(47)(48)	(44)(45)(47)(48)
	6		国語科の指導法	(51)～(56)	(51)～(56)
	7		算数・数学科の指導法	(58)～(61)	(57)～(60)
III	8	学力向上	児童生徒の状況	(11)～(12)	(11)～(12)
	9		学力向上に向けた取組・指導方法	(21)～(29)	(21)～(29)
IV	10	学校経営	地域の人材・施設の活用	(65)～(69)	(63)～(67)
	11		開かれた学校	(84)～(86)	(82)～(84)
	12		教員研修・教職員の取組	(87)～(90) (92)～(94)	(85)～(88) (90)～(92)

表3 平成20年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧

領域番号		領域名		小学校調査		中学校調査	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
I	1	教科学力	国語A	11.71	1.48	24.97	2.07
	2		算数・数学A	13.68	1.43	22.53	3.41
	3		国語B	6.00	1.13	6.08	0.81
	4		算数・数学B	6.61	1.05	7.33	1.28
II	5	学習に対する関心・意欲・態度	国語への関心等	2.99	0.21	2.78	0.19
	6		算数・数学への関心等	3.20	0.20	2.88	0.18
	7		総合的な学習への関心等	3.05	0.27	2.64	0.28
III	8	規範意識・自尊感情	規範意識	3.46	0.16	3.37	0.13
	9		自尊感情	3.24	0.19	3.00	0.15
IV	10	学習の基	豊かな体験	3.09	0.18	2.95	0.17
	11	盤となる	生活習慣	3.44	0.16	3.37	0.14
	12	体験・習慣	学習習慣	2.75	0.26	2.47	0.24

表4 平成20年度調査の「全国学力・学習状況調査結果チャート[学校運営]」作成のための全国を比較基準とする複合パラメータの平均値および標準偏差一覧

領域番号		領域名		小学校調査		中学校調査	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
I	1	教科学力	国語A	11.71	1.48	24.97	2.07
	2		算数・数学A	13.68	1.43	22.53	3.41
	3		国語B	6.00	1.13	6.08	0.81
	4		算数・数学B	6.61	1.05	7.33	1.28
II	5	教科指導	個に応じた指導	1.15	0.25	1.15	0.26
	6		国語科の指導法	1.77	0.21	1.78	0.21
	7		算数・数学科の指導法	1.77	0.24	1.73	0.24
III	8	学力向上	児童生徒の状況	1.91	0.25	1.88	0.28
	9		学力向上に向けた取組・指導方法	1.68	0.14	1.71	0.14
IV	10	学校運営	地域の人材・施設の活用	1.56	0.23	1.57	0.19
	11		開かれた学校	1.85	0.21	1.83	0.22
	12		教員研修・教職員の取組	1.94	0.12	1.87	0.17